佐賀県文化財調査報告書第69集

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書 1

1983年 3月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書第69集

佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書１

１９８３年　３月

佐 賀 県 教 育 委 員 会

はじめに

この調査報告書は佐賀県農業基盤整備事業の施行に先がけて、国庫補助金を得て実施した埋蔵文化財発掘調査報告書であります。

今年度も発掘調査により、旧石器時代から江戸時代に至る多くの遺跡が確認され、遺構や遺物が検出されました。なかでも、東脊振村夕ヶ里遺跡、神埼町志波屋遺跡群で検出された縄文時代から鎌倉時代にかけての大集落跡や神埼町尾崎土生遺跡出土の木製把頭飾は特筆すべきものであり、これらの資料は、わが県の古代史を知る上で貴重な資料となるものであります。

ここに発掘調査報告書を刊行し、学術資料として、また重要な文化財を県民の共有財産として大切に保存していくための資料として役立てていただければ幸いです。

この調査にあたって、文化庁、県農林部、各市町村教育委員会、土地改良課・産業課、並びに地元の関係者各位の深いご理解とご協力に対し、心からお礼申し上げます。

昭和58年3月31日

佐賀県教育委員会

教育長　古藤　浩

例　　言

1　本書は国庫補助事業として昭和56年度に発掘調査を実施した佐賀県農業基盤整備事業に伴う文化財発掘調査報告書である。

2　調査は、文化財確認調査については佐賀県教育委員会が主体となり、文化財発掘調査については、当該市町村教育委員会および佐賀県教育委員会が主体となり行った。

3　本書の執筆者はつぎのとおりである。

・Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ	木下　巧	・Ⅲ－２③	西村　隆司
・Ⅲ－１①	藤瀬　禎博	・Ⅲ－３⑤	原田　保則
・Ⅲ－１②③④、３④	天本　洋一	・Ⅲ－３①②、４①③	岩永　政博
・Ⅳ－2、3、11		・Ⅳ－10・19	
・Ⅲ－１⑤、Ⅳ１	久保　伸洋	・Ⅲ－３③、Ⅳ－４、６	松尾　吉高
・Ⅲ－１⑥、Ⅳ５	八尋　実	・Ⅲ－４②、Ⅳ－13	中島　直幸
・Ⅲ－１⑦、２②、Ⅳ－７・18	森田　孝志	・Ⅳ－12・16・17	堀川　義英
・Ⅲ－１⑧、Ⅲ－２④、Ⅳ－９	蒲原　宏行	・Ⅳ－14・15	川崎　吉剛
・Ⅲ－２①、Ⅳ８	福田　義彦		

4　整図は六田育子、川頭久美、森田孝志がおこなった。

5　編集は、調査担当者および、藤井伸幸、徳富則久、種浦　修の協力をうけ、森田孝志が担当した。

凡　　例

1　遺構番号に用いた分類記号はＳＢ：住居跡・建物跡、ＳＫ：貯蔵穴・土壙、ＳＥ：井戸跡、ＳＤ：溝・溝状遺構、ＳＪ：甕棺墓、ＳＸ：その他の遺構、Ｐ：柱穴・小土壙である。

2　地図の方位はすべて座標北で、挿図、本文中に用いた方位は磁北である。

3　挿図中の、■は遺構・遺物包含層を検出した試掘溝、□は遺構、遺物包含層が検出されなかった試掘溝を表わす。

4　調査期間は、現場での発掘調査期間である。

目　　次

Ⅰ　発掘調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　調査組織 …… 2

Ⅲ　昭和56年度確認調査の内容 …… 3

1　佐賀東部地区の調査…… 3
① 鳥栖市（田代地区）…… 4
② 基山町（金丸地区、丸林地区）…… 4
③ 北茂安町（北茂安西部地区）…… 6
④ 三根町（三根西一期地区、三根東地区）…… 6
⑤ 東脊振村（大曲地区）…… 8
⑥ 神埼町（的地区）…… 8
⑦ 諸富町（諸富地区）……10
⑧ 千代田町（詫田地区）……10
2　佐賀西部地区の調査……13
① 佐賀市（嘉瀬地区、蓮池地区）……14
② 大和町（久池井地区、川上南部第一地区、川上南部第二地区）……14
③ 三日月町（織島東分地区）……16
④ 多久市（多久東部地区）……16
3　佐賀南部地区の調査……17
① 白石町（白石西第1地区、白石西第4地区）……18
② 塩田町（南志田地区、塩田地区）……18
③ 有明町（有明第1地区、有明第3地区）……22
④ 嬉野町（嬉野北部地区）……22
⑤ 武雄市（武雄東部地区、武雄南部地区）……22
4　佐賀北部地区の調査……25
① 西有田町（曲川地区、大山地区）……25
② 唐津市（鏡・久里地区）……27
③ 相知町（伊岐佐地区）……28

5　佐賀上場地区の調査……29

IV　昭和56年度発掘調査の概要 ……30

1　夕ヶ里遺跡……30
2　田手一本黒木遺跡……34
3　神輿塚、直代遺跡……36
4　詫田上地遺跡……38
5　尾崎土生遺跡……40
6　志波屋遺跡……44
7　北浦遺跡……47
8　柴尾橋下流遺跡……50
9　織島西分遺跡群……52
10　板橋遺跡……54
11　久里大堀、久里古川遺跡……56
12　鞍（鼓）遺跡……58
13　上場遺跡……60
14　大橋遺跡……62
15　波戸遺跡群（永田A・C遺跡、鳥ノ巣遺跡）……64
16　日南田代遺跡群（山中遺跡、西七ツ江遺跡）……65
17　田尾遺跡……66
18　平野遺跡群（前田A遺跡、前田B遺跡）……66
19　野田遺跡……67

V　総　　括 ……69

挿　図　目　次

第1図　昭和56年度農業基盤整備事業に伴う確認調査地区・発掘調査遺跡位置図
第2図　佐賀東部地区周辺地形図（1）…… 3
第3図　佐賀東部地区周辺地形図（2）…… 4
第4図　鳥栖市田代地区試掘溝配置図…… 5

第５図　基山町金丸地区試掘溝配置図…… 6
第６図　三根町三根東地区試掘浦配置図…… 7
第７図　三根町三根西地区試掘溝配置図…… 7
第８図　東脊振村大曲地区試掘溝配置図…… 9
第９図　神埼町的地区試掘溝配置図……折りこみ
第10図　諸富町諸富地区試掘溝配置図……11
第11図　千代田町詫田地区試掘溝配置図……12
第12図　佐賀西部地区周辺地形図（１）……13
第13図、14図　佐賀西部地区周辺地形図（２）……14
第15図　大和町久池井地区試掘溝配置図……折りこみ
第16図　大和町川上南部第２地区試掘溝配置図……15
第17図　三日月町織島東分地区試掘溝配置図……折りこみ
第18図　佐賀南部地区周辺地形図……17
第19図　白石町白石西第１地区試掘溝配置図……19
第20図　塩田町南志田地区試掘溝配置図……20
第21図　塩田町塩田（五町田）地区試掘溝配置図……21
第22図　武雄市武雄南部（片白・芦原）地区試掘溝配置図……23
第23図　武雄市武雄東部（甘久）地区試掘溝配置図……24
第24・25図　佐賀北部地区周辺地形図……25
第26図　西有田町曲川地区試掘溝配置図……26
第27図　西有田町大山地区試掘溝配置図……26
第28図　唐津市久里・鏡地区試掘溝配置図……27
第29図　相知町伊岐佐地区試掘溝配置図……28
第30図　佐賀上場地区周辺地形図……29
第31図　遺跡周辺地形図……30
第32図　夕ヶ里遺跡遺構配置図……31
第33図　遺跡周辺地形図……34
第34図　田手一本黒木遺跡遺構配置図……34
第35図　遺跡周辺地形図……36
第36図　神輿塚遺跡・直代遺跡(Ⅲ区)遺構配置図……36
第37図　遺跡周辺地形図……38
第38図　遺跡周辺地形図……40
第39図　遺跡周辺地形図……44

第40図　遺跡周辺地形図……47
第41図　北浦遺跡Ｆ・Ｇ地区遺構配置図……48
第42図　遺跡周辺地知図……50
第43図　遺跡周辺地形図……52
第44図　遺跡周辺地形図……54
第45図　遺跡周辺地形図……56
第46図　久里遺跡遺構配置図……56
第47図　鞍(鼓)遺跡遺構配置図……58
第48図　遺跡周辺地形図……60
第49図　遺跡周辺地形図……62
第50図　大橋遺跡住居跡出土土器実測図……62
第51図　遺跡周辺地形図……64
第52図　鳥ノ巣遺跡ＳＢ001住居跡実測図 ……64
第53図　遺跡周辺地形図……65
第54図　遺跡周辺地形図……66
第55図　遺跡周辺地形図……66
第56図　遺跡周辺地形図……67

図　版　目　次

図版1・2 ①夕ヶ里遺跡9・10区全景(北から)　⑥10区ＳＢ278住居跡（南から）
②夕ヶ里遺跡10区全景（南から）　⑦6区ＳＥ184井戸跡断面（南西から）
③7区ＳＢ331住居跡（南から）　⑧2区ＳＢ008堀立柱建物跡（南東から）
④10区ＳＢ406住居跡（北から）　⑨8区ＳＫ344土壙（北西から）
⑤9区ＳＢ439住居跡（南から）　⑩10区ＳＢ224堀立柱建物跡（北から）
図版3 ①田手一本黒木遺跡1区全景(西から)　③田手一本黒木遺跡ＳＫ301土壙
②田手一本黒木3区全景（南から）
図版4 ①神輿塚遺跡全景（東から）　③神輿塚遺跡貝留り
②神輿塚遺跡ＳＥ101井戸跡　④直代遺跡3区全景（東から）
図版5 ①詫田上地遺跡1区全景　③2区ＳＫ205土壙
②1区貝層断面　④2区ＳＫ201土壙

図版6　ＳＥ609井戸跡出土木製把頭飾

図版7　①10区全景（東から）
②９区ＳＢ902住居跡（北から）
③５区ＳＢ503建物跡（北から）

図版8　①３区Ｐ311内土器出土状況(南から)
②６区ＳＥ609井戸跡（西から）
③９区ＳＰ901土壙墓

図版9　①志波屋一本松遺跡全景（東から）
②志波屋遺跡五本松全景（西から）
③志波屋五本松遺跡上段全景（北から）

図版10　①志波屋一本松遺跡ＳＪ011甕棺墓
②志波屋一本松遺跡ＳＢ010住居跡
③志波屋一本松遺跡ＳＢ003住居跡
④志波屋五本松遺跡ＳＤ001溝跡(西から)
⑤志波屋五本松遺跡ＳＢ328住居跡
⑥志波屋五本松遺跡ＳＢ321、317、326、311住居跡（北から）
⑦志波屋五本松遺跡ＳＢ322住居跡
⑧志波屋五本松遺跡ＳＢ357住居跡(北から)

図版11　①北浦遺跡、Ｆ区全景（南から）
②Ｇ区南側遺構（東から）
③Ｇ区、ＳＢ663、664建物跡
④Ｆ区　ＳＸ606石垣状遺構（南から）

図版12　①柴尾橋下流遺跡調査区全景
②ＳＫ028貯蔵穴（東から）
③ＳＤ004溝跡出土連弧文鏡(⅓)
④⑤ＳＫ028土壙出土土器

図版13　①杉町遺跡１区全景（北から）
②杉町遺跡II区全景（西から）
③杉町遺跡III区全景（西から）
④杉町遺跡IV区全景（南から）
⑤織島西分Ａ遺跡全景（南から）
⑥織島西分Ａ遺跡ＳＫ002土壙、ＳＢ001住居跡（南から）

図版14　①板橋遺跡IV区全景
②板橋遺跡III区全景（西から）
③IV区ＳＫ428土壙（北から）
④III区ＳＥ305井戸跡（北から）

図版15　①久里大堀遺跡全景（西から）
②久里大堀遺跡全景（東から）
③ＳＢ101・102住居跡
④ＳＢ101住居跡
⑤ＳＢ103住居跡
⑥久里古川遺跡ＳＥ201井戸跡

図版16　鞍（鼓）遺跡遠景

図版17　①鞍（鼓）遺跡調査区近景
②Ａ区ＳＪ001甕棺墓
③Ａ区ＳＪ003・004・005甕棺墓
④Ａ区土壙
⑤Ａ区石囲い土壙墓
⑥Ａ区古墳石室内遺物出土状況

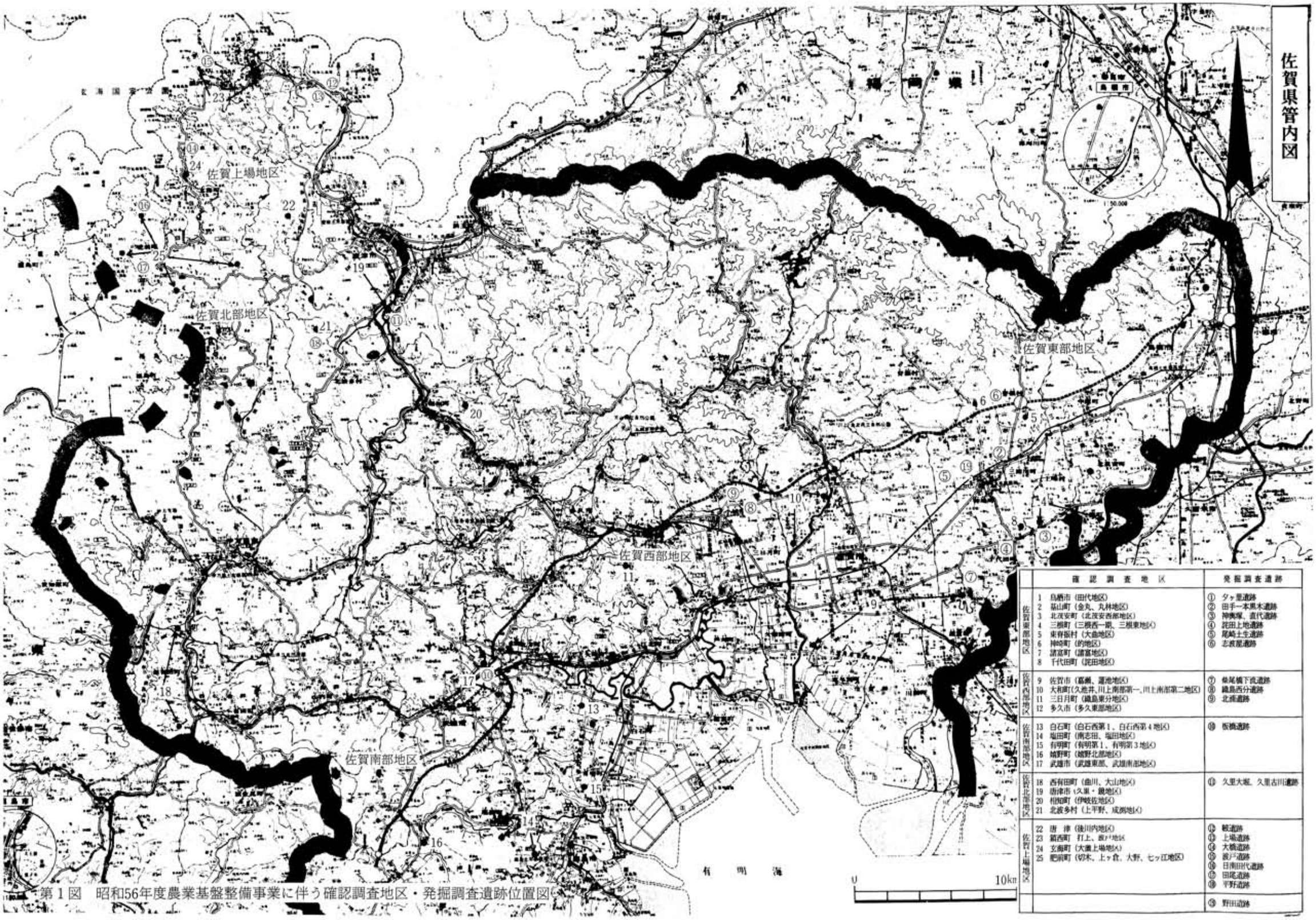
図版18　①上場遺跡遠景
②上場遺跡全景(柴尾地区、西から)
③柴尾地区２号住居跡
④柴尾地区７号土壙
⑤上場遺跡出土土器、土製品
⑥上場遺跡出土石器

図版19　①大橋遺跡全景
③ＳＫ002土器出土状況

②ＳＢ001住居跡
図版20　山中遺跡全景（南から）
図版21　①野田遺跡調査区西側全景(東から)　④ＳＢ038掘立柱建物跡（東から）
②野田遺跡調査区東側全景(東から)　⑤ＳＥ006井戸跡（南東から）
③ＳＢ001住居跡（西から）　⑥ＳＫ013土壙（北から）

表　目　次

表１　農業基盤整備事業施工予定地内文化財確認調査一覧表（昭和56年度）……折りこみ
表２　昭和56年度発掘調査遺跡一覧表……折りこみ
表３　詫田上地貝塚の自然遺物出土量……38
表４　詫田上地貝塚の骨別出土骨片数……38



	確認調査地区	発掘調査遺跡
佐賀東部地区	1 鳥栖市（田代地区） 2 基山町（金丸、丸林地区） 3 北茂安町（北茂安西部地区） 4 三根町（三根西一期、三根東地区） 5 東脊振村（大曲地区） 6 神埼町（的地区） 7 諸富町（諸富地区） 8 千代田町（詫田地区）	① タヶ里遺跡 ② 田手一本黒木遺跡 ③ 神興塚、直代遺跡 ④ 詫田上地遺跡 ⑤ 尾崎土生遺跡 ⑥ 志波屋遺跡
佐賀西部地区	9 佐賀市（嘉瀬、蓮池地区） 10 大和町（久池井、川上南部第一、川上南部第二地区） 11 三日月町（織島東分地区） 12 多久市（多久東部地区）	⑦ 柴尾橋下流遺跡 ⑧ 織島西分遺跡 ⑨ 北原遺跡
佐賀南部地区	13 白石町（白石西第1、白石西第4地区） 14 塩田町（南志田、塩田地区） 15 有明町（有明第1、有明第3地区） 16 鹿野町（鹿野北部地区） 17 武雄市（武雄東部、武雄南部地区）	⑩ 阪橋遺跡
佐賀北部地区	18 西有田町（曲川、大山地区） 19 唐津市（久里・鏡地区） 20 相知町（伊岐佐地区） 21 北波多村（上平野、成願地区）	⑪ 久里大堀、久里古川遺跡
佐賀上場地区	22 唐津（後川内地区） 23 鎮西町（打上、坂ノ下地区） 24 玄海町（大瀬上場地区） 25 肥前町（切木、上ヶ倉、大野、ヒッ江地区）	⑫ 横道跡 ⑬ 上場遺跡 ⑭ 大橋遺跡 ⑮ 坂ノ下遺跡 ⑯ 日南田代遺跡 ⑰ 田尾遺跡 ⑱ 平野遺跡
		⑲ 野田遺跡

第１図　昭和56年度農業基盤整備事業に伴う確認調査地区・発掘調査遺跡位置図

Ⅰ　発掘調査に至る経過

(1)　設計協議

昭和53年４月の県農林部と県教委の農業基盤整備事業に係る文化財の取扱いに関する確認事項に従って、工事に先立つ２年前の９月（実質的には前年）に施行計画の協議を行った。昭和56年度は、佐賀東部地区（鳥栖市、神埼町、千代田町、東脊振村、基山町、三田川町、北茂安町、三根町、諸富町）373.8ha、佐賀西部地区（佐賀市、多久市、大和町、三日月町、小城町、芦刈町）233ha、佐賀南部地区（武雄市、鹿島市、白石町、有明町、塩田町、嬉野町）275ha、佐賀北部地区（唐津市、伊万里市、西有田町、相知町、北波多村）110ha、佐賀上場地区（唐津市、呼子町、鎮西町、玄海町、肥前町、北波多村）90haの合計1085haである。施行主体は、九州農政局上場水利事業所々管の国営、佐賀県農林部所管の県営、市町村所管の団体営（鳥栖市、基山町、大和町、塩田町、嬉野町など）事業に区分される。また、佐賀東部導水路工事に伴う文化財発掘調査を今年度から開始した。

(2)　確認調査

提出された設計書をもとに検討して、必要な地区へは現地踏査を行い、確認調査の必要な地区と遺跡の所在が認められない地区との区別を行う。遺跡の存在が考えられ、確認調査の必要が認められる市町村の教育委員会と土地改良担当課、当該事業を所管する上場水利事業所、県農林部との第１回目の４者協議会を10月８日に開いた。

文化財確認調査は稲刈りが終了した10月下旬から麦の作付が始まる12月上旬までの間に行ったが、農作物の状況によっては調査時期がずれることもあった。確認調査の方法は原則として、２ｍ×２ｍの試掘溝を20m間隔に碁盤の目状に設定し、文化財の有無、性格、広がりなどを調査した。

(3)　開発と文化財保護に係る協議

確認調査結果を検討して各事業施工区内の詳細な遺跡分布図が完成し、約50万㎡の遺跡分布が確認された。開発と文化財保護の調整を計る第２回目の４者協議会を12月16日に開いた。その後、昭和57年３月中旬まで各事業ごとに協議が継続され、３月４日に第３回の４者協議を以て昭和56年度の開発と文化財保護との調整がなされた。この調整で50万㎡遺跡のうち45万㎡は工事で、設計変更による埋土保存の処置がとられることになったが、残る５万㎡については発掘調査を実施し記録保存することになった。

本年度、市町村教育委員会が実施した発掘調査は、昨年度に同様な方法で確認調査の実施、農林側との協議を経てきたものである。

II 調 査 組 織

(1) 調査主体

佐賀県教育委員会	東脊振村教育委員会
佐賀市教育委員会	小城町教育委員会
唐津市教育委員会	三日月町教育委員会
鳥栖市教育委員会	玄海町教育委員会
多久市教育委員会	鎮西町教育委員会
武雄市教育委員会	肥前町教育委員会
神埼町教育委員会	北波多村教育委員会

(2) 事 務 局

佐賀県教育委員会

局 長	藤山 厳	県文化課課長	次長	川久保松広	県文化課課長補佐
庶務会計	中野 安正	県文化課庶務係長		山口 勝	県文化課庶務係
	野口 茂実	県文化課庶務係		森 由紀子	県文化課庶務係

(3) 調査委員会

委員長	古藤 浩	佐賀県教育長	委員	宇田川勝之	佐賀県教育次長
委員	村岡 昭	佐賀県教育次長		鏡山 猛	県文化財保護審議委員
	岡崎 敬	県文化財保護審議委員		小田富士雄	県文化財保護審議委員
	沢村 仁	県文化財保護審議委員			

(4) 調 査 員

調査総括	高島 忠平	県文化課課長補佐			
調査主任	木下 巧	県文化課文化財調査第2係長			
調査員	堀川 義英	県文化課文化財調査第2係	調査員	天本 洋一	県文化課文化財調査第2係
	松尾 吉高	県文化課文化財調査第2係		岩永 政博	県文化課文化財調査第2係
	蒲原 宏行	県文化課文化財調査第2係		川崎 吉剛	県文化課文化財調査第2係
	森田 孝志	県文化課文化財調査第2係			
調査員	福田 義彦	佐賀市教育委員会	調査員	中島 直幸	唐津市教育委員会
	藤瀬 禎博	鳥栖市教育委員会		西村 隆司	多久市教育委員会
	原田 保則	武雄市教育委員会		奥 弘幸	武雄市教育委員会
	盛 峰雄	伊万里市教育委員会		久保 伸洋	東脊振村教育委員会
	八尋 実	神埼町教育委員会		紡方裕次郎	神埼町教育委員会

調査補助員 山口 繁樹・大坪 正登・福田 京子・道込 秀人・迎 昌博・谷沢 仁

表1　農業基盤整備施工予定地内文化財確認調査一覧表（昭和56年度）

地　区	市町村名	工事地区名	所　在　地	確認調査面積	調　査　結　果	備　考
佐賀東部	鳥栖市	田代	鳥栖市神辺町	18.8ha	弥生時代後期～古墳時代の住居跡、土壙、溝跡、柱穴を検出、弥生土器、土師器、須恵器、青磁出土	
	基山市	金丸	三養基郡基山町大字宮浦	6	弥生時代中期～後期の土壙、柱穴、遺物包含層を検出、弥生土器出土	
	〃	丸林	〃　〃　〃	4	遺構、遺物は検出されなかった。	
	北茂安町	北茂安南部	三養基郡北茂安町大字中津隈	5	〃	
	三根町	三根東	三養基郡三根町大字天建寺	20	古墳時代～中世の土壙、柱穴、溝跡を検出。	天建寺遺跡
	〃	三根西	〃　〃　大字寄人	50	古墳時代の土壙を検出、須恵器、土師器出土	
	東脊振村	大曲	神埼郡東脊振村大字大曲	25	弥生時代～中世の土壙、柱穴、溝跡を検出、弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器等出土	大曲遺跡群（東外A、B、[illegible]船の内A、B、C、[illegible]ノ尾A、大曲A、B、C）
	神埼町	的	神埼郡神埼町大字的	95	弥生時代～中世の住居跡、柱穴、溝跡、甕棺墓、古墳を検出、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等出土	的遺跡（A～J地区）
	千代田町	詫田	神埼郡千代田町大字詫田	115	弥生時代～中世の土壙、柱穴、貝層を検出、弥生土器、土師器出土	詫田西分貝塚、高志神社遺跡、森ノ木貝塚
	諸富町	諸富	佐賀郡諸富町大字徳富	35	弥生時代後期～中世の土壙、柱穴を検出、弥生土器、土師器出土	徳富権現堂遺跡
佐賀西部	佐賀市	嘉瀬	佐賀市嘉瀬町大字十五	48	遺構、遺物検出されなかった。	
	〃	蓮池	〃　蓮池町大字見島	55	遺構は検出されず、土器細片のみ出土	
	大和町	川上南部第一	佐賀郡大和町大字東山田	38	遺構は検出されず、土器細片のみ出土	
	〃	川上南部第二	〃　〃　大字池ノ上	50	弥生時代、土壙、柱穴遺物包含層を検出、弥生土器出土	檜田三本松遺跡
	〃	久池井	〃　〃　大字久池井	10	弥生時代～中世の溝跡、柱穴を検出、弥生土器、土師器、青磁出土	久池井
	三日月町	東分	小城郡三日月町大字織島	10	弥生時代～中世の土溝、柱穴、溝跡、方墳を検出	
	多久市	多久東部	多久市南多久町大字下多久	22	遺構、遺物は検出されなかった。	
佐賀南部	白石町	白石西第一	杵島郡白石町大字馬洗	34	室町時代～江戸時代の土壙、柱穴を検出、土師器片出土	馬洗、神辺遺跡
	〃	白石西第四	〃　〃　大字堤	13	遺構、遺物は検出されなかった。	
	有明町	有明第一	杵島郡有明町大字坂田	39	〃	
	〃	有明第三	〃　〃　大字牛屋	30		
	塩田町	南志田	藤津郡塩田町大字久間	20	弥生時代～中世の柱穴を検出、縄文土器、弥生土器、土師器、白磁出土	
	〃	町分	〃　〃　大字馬場下	4	遺構、遺物は検出されなかった。	
	〃	塩田（五町田）	〃　〃　大字五町田	25	奈良時代の柱穴を検出、土師器、須恵器出土	
	〃	塩田（谷　所）	〃　〃　大字谷所		遺構、遺物は検出されなかった。	
	嬉野町	嬉野北部	藤津郡嬉野町大字下宿	19.9	遺構、遺物は検出されなかった。	
	武雄市	武雄南部	武雄市橘町大字片白芦原	41	弥生時代の土壙、柱穴を検出、弥生土器、須恵器出土	庄ノ前、林副遺跡
	〃	武雄東部（甘　久）	〃　朝日町大字甘久	19	弥生時代～古墳時代の柱穴、溝跡を検出、弥生土器、須恵器、土師器、石器出土	後田、森崎、大鹿遺跡
	〃	〃（半上、長谷）	〃　〃　大字中野	3	遺構、遺物は検出されなかった。	
	〃	〃（戸　坂）	〃　〃　大字繁昌	3	〃	
佐賀北部	西有田町	曲川	西松浦郡西有田町大字曲川	25	縄文時代、近世の土壙、柱穴を検出、黒曜石片、陶器片出土	楠ノ木原遺跡
	〃	大山	〃　〃　大字山谷	11	縄文時代の柱穴を検出、黒曜石片、陶磁器片出土	黒木原遺跡
	唐津市	鏡久里	唐津市大字久里	51	古墳時代、中世の土壙、柱穴、井戸跡を検出、土師器、白磁片出土	久里大堀、久里古川遺跡
	伊万里市	南波多南部	伊万里市大字井手野	5	現地踏査の結果遺跡の存在は考えられなかった。	踏査のみ
	〃	上伊万里	〃　大川内町丙	11	〃	〃
	〃	波多津	〃　大字筒井	20	〃	〃
	〃	波多津東部	〃	17.6	〃	〃
	相知町	伊岐佐	東松浦郡相知町大字伊岐佐上	10	中世の柱穴を検出、土師器片、青磁片出土	
佐賀上場	唐津市	後川内	唐津市大字後川内	15	縄文時代遺物包含層、中世一近世集落跡、石塁を検出	石ヶ元遺跡他
	鎮西町	波戸	東松浦郡鎮西町大字波戸	26.6	縄文時代～弥生時代の柱穴を検出	
	〃	打上（丸田）	〃　〃　大字丸田	4.5	遺構、遺物は検出されなかった。	
	玄海町	大薗上場	〃　玄海町大字大薗	4	〃	
	肥前町	七ツ江	〃　肥前町大字納所	5	〃	
	〃	切木	〃　〃　大字切木	6	旧石器時代遺物包含層を検出、細石核、細石刃が出土	
	〃	大野	〃　〃　大字星賀	10	旧石器時代遺物包含層を検出	
	〃	上ヶ倉	〃　〃　大字新木場	1.5	〃	
	北波多村	上平野・成渕	〃　北波多村大字上平野	18.1	中世の柱穴を検出、縄文時代晩期、土器、石器出土	
白石平野導水路	白石町・有明町		杵島郡白石町大字湯崎 〃　有明町大字辺田	長さ 800m	23ヶ所を試掘したが遺構遺物は検出されなかった。	

表2　昭和56年度　発掘調査遺跡一覧表

地区	遺跡名	略号	遺跡所在地	調査面積(㎡)	調査期間	調査主体者	遺跡の内容	
佐賀東部	夕ヶ里遺跡	YGR	神埼郡東脊振村大字三津	12,000㎡	昭56. 4～昭57. 3	東脊振村教委 県教委	縄文時代後期～鎌倉時代集落跡、墓地	
	田手一本黒木遺跡	TDI	神埼郡三田川町大字田手	1,100	昭56. 4～昭56. 8	県教委	弥生時代中期～鎌倉時代集落跡	
	神輿塚遺跡	MKS	三養基郡三根町大字東津	450	昭56. 8～昭56. 9	三根町教委	古墳時代～中世集落跡	
	詫田上地遺跡	TAC	神埼郡千代田町大字上地	1,000	昭56. 7～昭56. 9	県教委	弥生時代前期貝塚、貯蔵穴、土壙	
	尾崎土生遺跡	OSH	神埼郡神埼町大字尾崎	7,000	昭56. 5～昭57. 2	神埼町教委 県教委	弥生時代中期～古墳時代後期、中世、近世集落跡	
	志波屋遺跡群	SWI SWG	神埼郡神埼町大字志波屋	5,000	昭56. 9～昭57. 2	県教委	縄文時代墓地、弥生時代～古墳時代後期集落跡	志波屋一本松、志波屋五本松
佐賀西部	北浦遺跡	KTU	小城郡小城町大字松尾	4,000	昭56. 8～昭57. 1	小城町教委 県教委	縄文時代、室町時代館跡	
	紫尾橋下流遺跡	SBK	佐賀市蓮池町大字四本黒木	1,200	昭56. 9～昭56. 10	佐賀市教委	弥生時代終末～古墳時代前期、歴史時代集落跡	
	織島西分遺跡群	ONB	小城郡三日月町大字織島	3,730	昭56. 4～昭57. 2	三日月町教委	弥生時代中期～中世集落跡	織島西分A遺跡、杉田遺跡
佐賀南部	板橋遺跡	ITB	武雄市橘町大字片白	950	昭56. 9～昭56. 11	県教委	鎌倉時代～江戸時代集落跡	
佐賀北部	久里大堀、久里古川遺跡	KKR	唐津市大字久里	150	昭56. 9～昭56. 10	県教委	古墳時代前期～鎌倉時代集落跡	昭和56年度確認調査
佐賀上場	鮫遺跡	TZM	唐津市（湊町）大字湊	2,200	昭56. 10～昭56. 11	県教委	縄文時代晩期遺物包含層、弥生時代前期集落跡	
	上場遺跡	UWB	唐津市大字湊	1,400	昭56. 9～昭56. 10	唐津市教委	弥生時代後期～古墳時代集落跡	
	大橋遺跡	OHS	東松浦郡玄海町大字今村	500	昭56. 9	玄海町教委	縄文時代晩期土壙、古墳時代住居跡	
	波戸遺跡群 （永田A・C、鳥ノ巣遺跡）	HNG HTR	東松浦郡鎮西町大字波戸	2,850	昭57. 1～昭57. 3	鎮西町教委	弥生時代中期～古墳時代集落跡、墳墓	永田A、C遺跡、鳥ノ巣遺跡
	日南田代遺跡群 （山中、西七ツ江遺跡）	HYN HNN	東松浦郡肥前町大字納所	1,700	昭56. 8～昭56. 9	県教委	旧石器時代遺物包含層、縄文時代土壙	山中遺跡、西七ツ江遺跡
	田尾遺跡	TAO	東松浦郡肥前町大字入野	1,400	昭56. 4～昭	肥前町教委	縄文時代早期集落跡、遺物包含層	
	平野遺跡群	MED	東松浦郡北波多村大字下平野	1,500	昭56. 5～昭56. 6	北波多村教委	縄文時代晩期柱穴群、遺物包含層	前田A·B遺跡
佐賀東部導水路	野田遺跡	NOD	神埼郡神埼町大字竹	1,200	昭57. 1～昭57. 3	県教委	弥生時代中期墳墓、古墳時代後期～鎌倉時代集落跡	

III　昭和56年度確認調査の内容

1　佐賀東部地区の調査

第２図　佐賀東部地区周辺地形図（１）

① 鳥栖市（田代地区）

田代地区は鳥栖市の北東部に位置し、鳥栖市神辺町字若桜・松本の前・古賀上・井手口・日岸田・坂本・竹原・庚申堂・唐木に所在する。対象面積は、九州横断道予定地を除いて、18.8haである。

調査対象地は柚比丘陵群の南斜面にあたり、大木川により形成された標高40～60m程の扇状地上に立地している。現在、主に緩やかな段のついた水田および畑地として利用されている。北側の斜面上は銅鐸鋳型の出土した安永田遺跡が、東側には国史蹟の装飾古墳である田代太田古墳が存在する。調査対象地は弥生時代から中世にかけての日岸田遺跡の範囲に含まれ、地形上から集落跡の存在が予想された。調査は、対象地の全域に幅２mの試掘溝を49ヵ所設定して遺構の検出にあたった。その結果、東西に延びる緩やかな丘陵鞍部から、住居跡・土壙・溝跡・柱穴を検出し、弥生時代後期から古墳時代にかけての土器片や須恵器、青磁類が出土した。九州横断道路予定地より北側の、標高60m以上の斜面地は、遺跡が水田開墾の際に大半破壊されており、一部は旧河川と思われる様相を示していた。また、標高57m以下の地区は湿地帯もしくは砂礫地であり、遺構は検出されなかった。

以上のことから、九州横断自動車道路予定地より南側の約10,000㎡に、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落跡が残存していることが確認された。圃場整備事業担当部局との協議の結果、設計変更がなされ、水路部分以外の遺跡は保存されることになった。

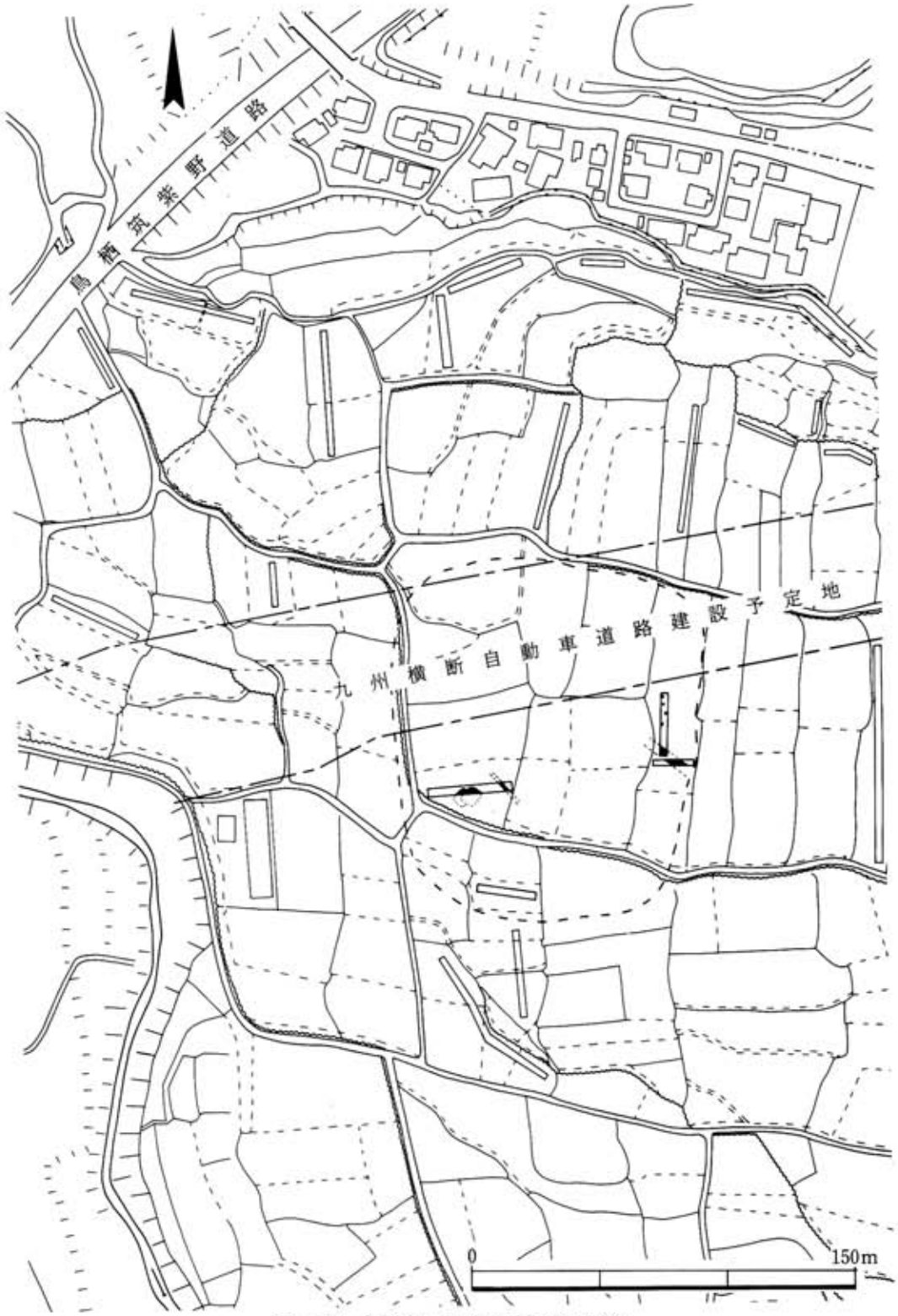
② 基山町（金丸、丸林地区）

金丸地区は基山町の南に東西に延びる金丸台地北側の標高41m程の段丘上に所在する。金丸台地上には、弥生～古墳時代にかけての集落跡・墓地跡が広範囲に広がっており、圃場整備予定地内にも遺跡の所在が考えられた。調査は、約6haの予定地に37ヵ所の試掘を行った。その結果８ヵ所の試掘溝から、柱穴、土壙や遺物包含層を検出し、弥生時代中期～後期の土器が出土した。遺跡は東西70m、南北50mの範囲に広がっていると考えられる。

丸林地区は基山町北部の基山（標高404.5m）の南側斜面に所在する。

1、鳥栖市田代地区　２A、基山町金丸地区　２B、基山町丸林地区

第３図　佐賀東部地区周辺地形図（２）



第4図　鳥栖市田代地区試掘溝配置図

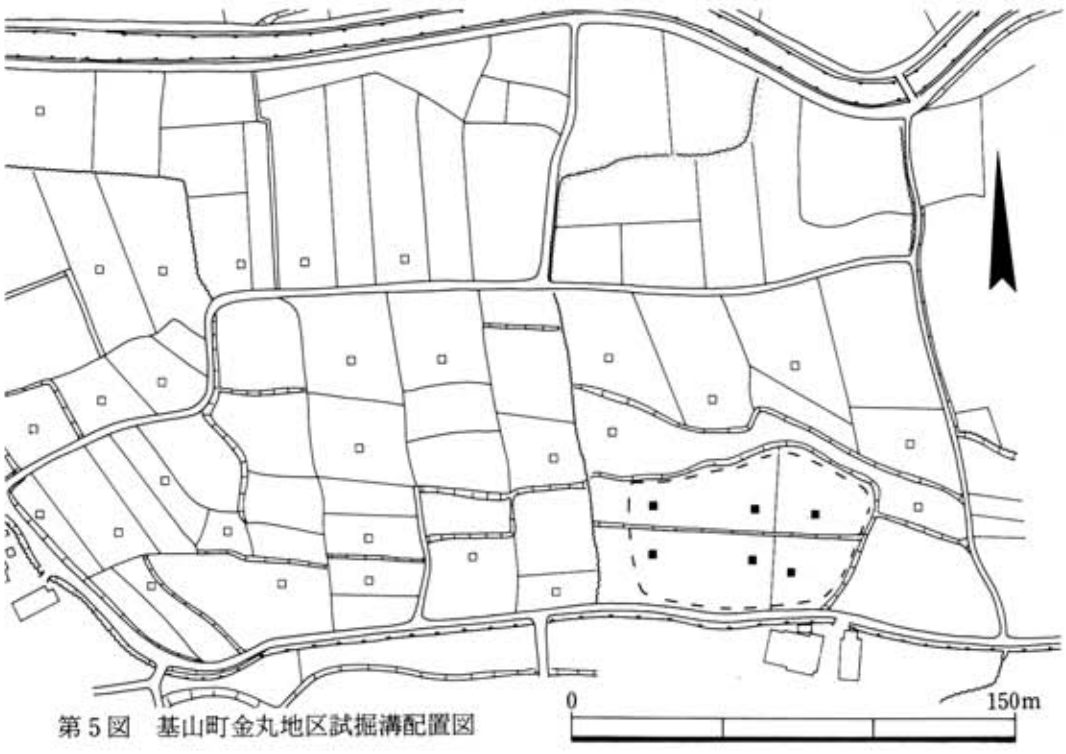
この地域は特別史跡基肄城跡の南1㎞に位置しており、基肄城跡の関連遺構や、縄文時代、古墳時代の遺跡の所在が考えられた。このため予定地区に25ヵ所の試掘溝を設けた。この結果、遺構や遺物は検出されず、当該地には遺跡の存在は考えられない。

③　北茂安町（北茂安西部地区）

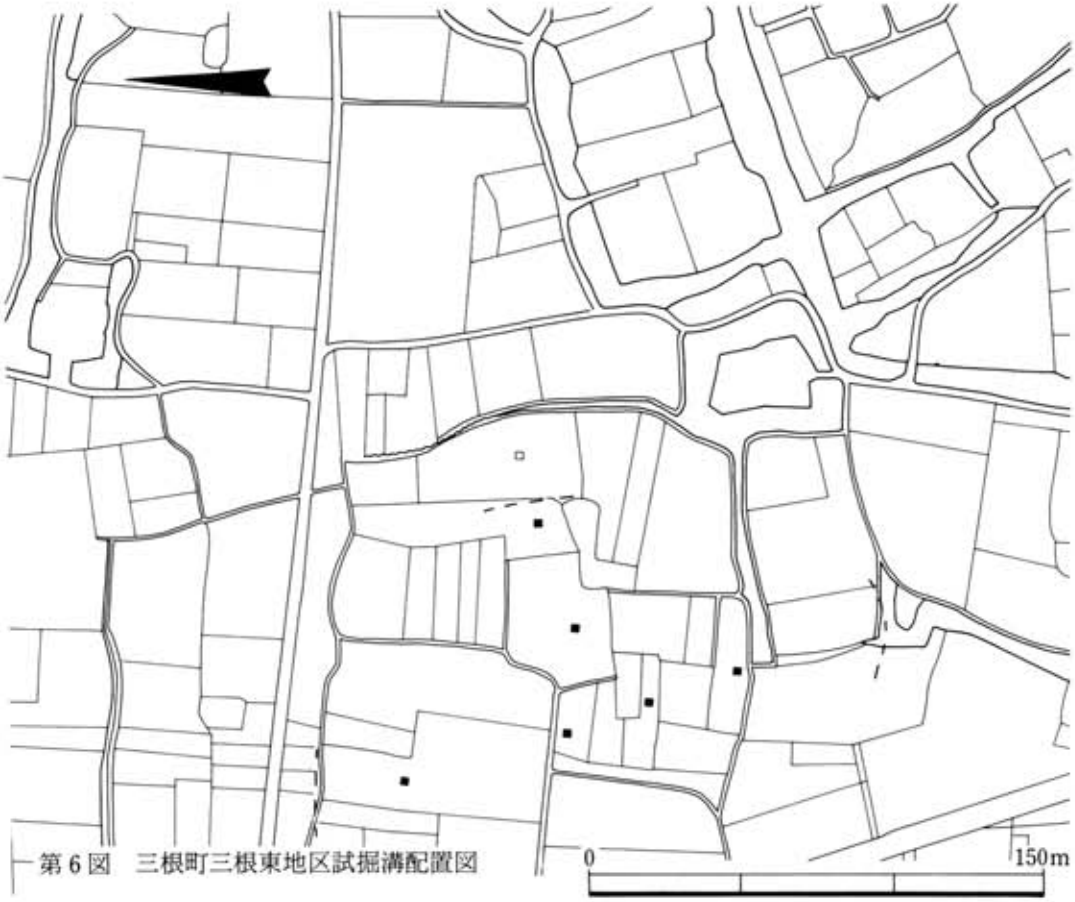
調査対象地は佐賀平野の東端、標高3m程の沖積平野上に所在する。当該地の周囲には、弥生時代の中津隅遺跡や中世の西寄遺跡が所在しており、予定地にも中世の遺構の所在が考えられた。圃場整備では表土扱いがないため、水路予定部分に22ヵ所の試掘溝を設定した。この結果、遺構や遺物は出土せず遺跡の存在は考えられない。

④　三根町（三根東、三根西地区）

三根東（天建寺）地区は佐賀平野の東端、標高3m余りの低平な沖積平野の中域に所在する。天建寺地区には弥生時代貝塚群の一つである持丸貝塚や石井北方貝塚、正応元年（1288）、納江出雲守源義宣により創建されたと伝えられる天建寺が所在する。天建寺地区の持丸や土居内の圃場整備事業は、1981年施行の予定であったため、1980年予定地区の確認調査を行った。その結果南島、天建寺の周囲及び天建寺の西側から古墳時代～中世にかけての遺跡の所在を確認した。今回の確認調査は、前回行えなかった県道西側の小高い部分と天建寺西側遺跡の範囲と性格を確実にするためで、12ヵ所の試掘溝を設けた。その結果県道西側の小高い部分からは、遺構が確認できなかったが天建寺西側からは、柱穴、溝、土壙を検出し、天建寺西側遺跡は、南



第5図　基山町金丸地区試掘溝配置図



第６図　三根町三根東地区試掘溝配置図

第７図　三根町三根西地区試掘溝配置図

北120m、東西100mにわたり中世の集落が広がっていると考えられる。

三根町三根西（寄人）地区は佐賀平野の東部、標高３m程の低平な沖積平野の中域に位置する。調査区域の周囲には弥生時代の南里ヶ里遺跡や古墳～中世にかけての直代遺跡が所在する。圃場整備では表土を動かさないため、水路予定部分に試掘溝を設けたが、水路は現存のクリークと重複する部分が多く29ヵ所を設定するにとどまった。確認調査の結果、井柳川の東側から須恵器・土師器を含んだ土壙を検出し、遺跡は東西40m程の範囲に広がっていると考えられる。

⑤　東脊振村（大曲地区）

調査対象地は、東脊振村の南東部に位置する標高20～30mの目達原洪積段丘上で、南北1.3km、東西0.8kmの約65haの広範囲にわたる。目達原洪積段丘は中位段丘で、段丘上は緩やかな台地となっている。段丘には比高１～２mの微高地が点在し、現在、主に畑地として利用されている。調査対象地の東0.8kmには、方格規矩鏡、連弧文昭明鏡、獣帯鏡など多彩な副葬品が出土した二塚山遺跡群が、西側の低台地には、方格規矩鏡、鉄刀を出土した横田遺跡が存在しており、周辺は県内でも有数の遺跡密集地となっている。調査対象地内にも弥生時代～古代・中世の東外遺跡、松の内遺跡、大曲柏原遺跡、松原遺跡、亀作遺跡、大曲遺跡の６ヵ所の遺跡が知られていた。

調査は対象地の全域について行い、204ヵ所を試掘した。その結果、62ヵ所の試掘溝から柱穴、土壙、溝などの遺構および弥生時代～中世の土器を検出した。標準土層は、第１層（表土層）が厚さ約20cm。第２層は、厚さ約20cmの黒褐色土で弥生～古墳時代の遺物を包含する。第３層は厚さ約120cmの暗褐色土で、大半の遺構は、この層の上面で検出できる。第４層は厚さ約30cmの明黄褐色土で、第３層との間に漸移層がある。第５層は10cm程の礫を多く含む明黄褐色土である。第３層以下からは遺物は出土していないが、第３層、第４層は上部ローム層と考えられ、旧石器時代の遺物を包含している可能性がある。

調査の結果、遺跡は11ヵ所（東外Ａ、松の内Ａ、瀬ノ尾Ａ、大曲柏原Ａ・Ｂ、亀作Ａ・Ｂ・Ｃ、大曲Ａ・Ｂ・Ｃ）をかぞえ、面積は合計105,000㎡になる。東外Ａ遺跡や大曲柏原Ａ遺跡では弥生時代後期の集落跡の一部が、松の内Ａ遺跡では中期後半から後期前半の墓地が確認され、瀬ノ尾Ａ遺跡では中期の土壙が検出された。また大曲Ａ遺跡は弥生時代中期の遺構が比較的良好な形で残っている大規模な集落跡である。

⑥　神埼町（的地区）

調査対象地の的地区は、神埼町北部に位置する。城原川東岸に形成された標高約14～18mの扇状地と、標高約20～40mの段丘、標高18～25mの段丘及び丘陵部に地形上分かれている。

調査対象地一帯は、以前から弥生時代より古墳時代にかけての土器片の散布がみられ、甕棺墓や古墳も確認されており、今回の調査においても、これらの遺構の検出が予想された。

調査は、約95haの対象地区のほぼ全面について行い、約500ヵ所を試掘した。この結果、扇状地面には、礫層が厚く、また砂層が全面に堆積しており遺構は検出されなかった。しかし、段

第8図　東脊振村大曲地区試掘溝配置図

丘面上には、10ヵ所（A～J地区）から遺跡が確認された。A地区は、面積約82,000㎡に延び、弥生時代より古墳時代にかけての住居跡、溝跡、小穴を確認した。B・C地区は、甕棺墓、古墳、小穴を確認した。G地区は、面積約11,000㎡で古代～中世に至る小穴、磁器等を検出した。H・I地区及びこの周辺部では、破壊された古墳の一部を7基確認でき、本来、標高約25m～40mにかけての段丘、丘陵面は、多数の古墳が存在していたものと思われる。

以上のように的地区からは、確認調査の結果、弥生時代から中世にかけての広範囲な遺跡の存在が認められ、今後、A地区を主体とした集落跡とC・D地区およびH・I地区を中心とした墳墓群との関係が注目される。

⑦　諸富町（諸富地区）

諸富（徳富）地区は、諸富町大字大堂から大字徳富にかけて約35haを調査した。調査対象地は諸富町の東端に位置する。筑後川支流の城原川が筑後川に合流する地点の西岸にあたり、標高2m～3mの水田地帯である。諸富町内は、現在までに約30ヵ所の遺跡が確認されているが、そのうち大半は中世以降の遺跡である。今回調査を行った徳富・大堂周辺も大堂五本松遺跡、上大津城跡などの中世遺跡が存在し、また調査対象地の東側は、徳富本村遺跡の範囲に含まれていた。

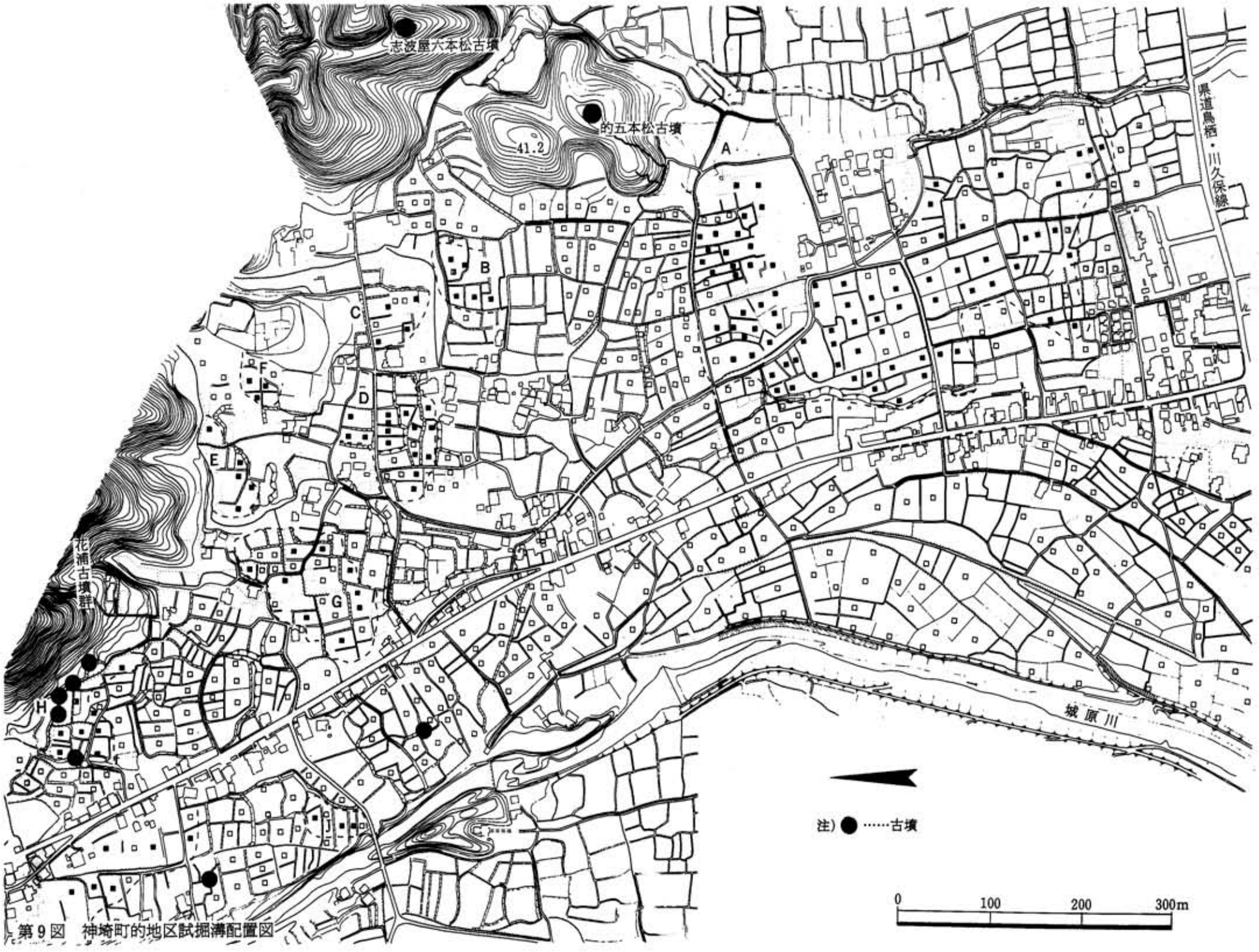
調査は主に水路予定部分について行い、100ヵ所を試掘した。その結果、調査対象地の南西部、西覚寺の西側の約10ヵ所の試掘溝から、柱穴・土壙などの遺構を検出し、弥生時代後期～中世の遺物が出土した。

調査対象地、南西端の約3,000㎡の範囲に弥生時代後期～中世の遺跡の存在が予想される。

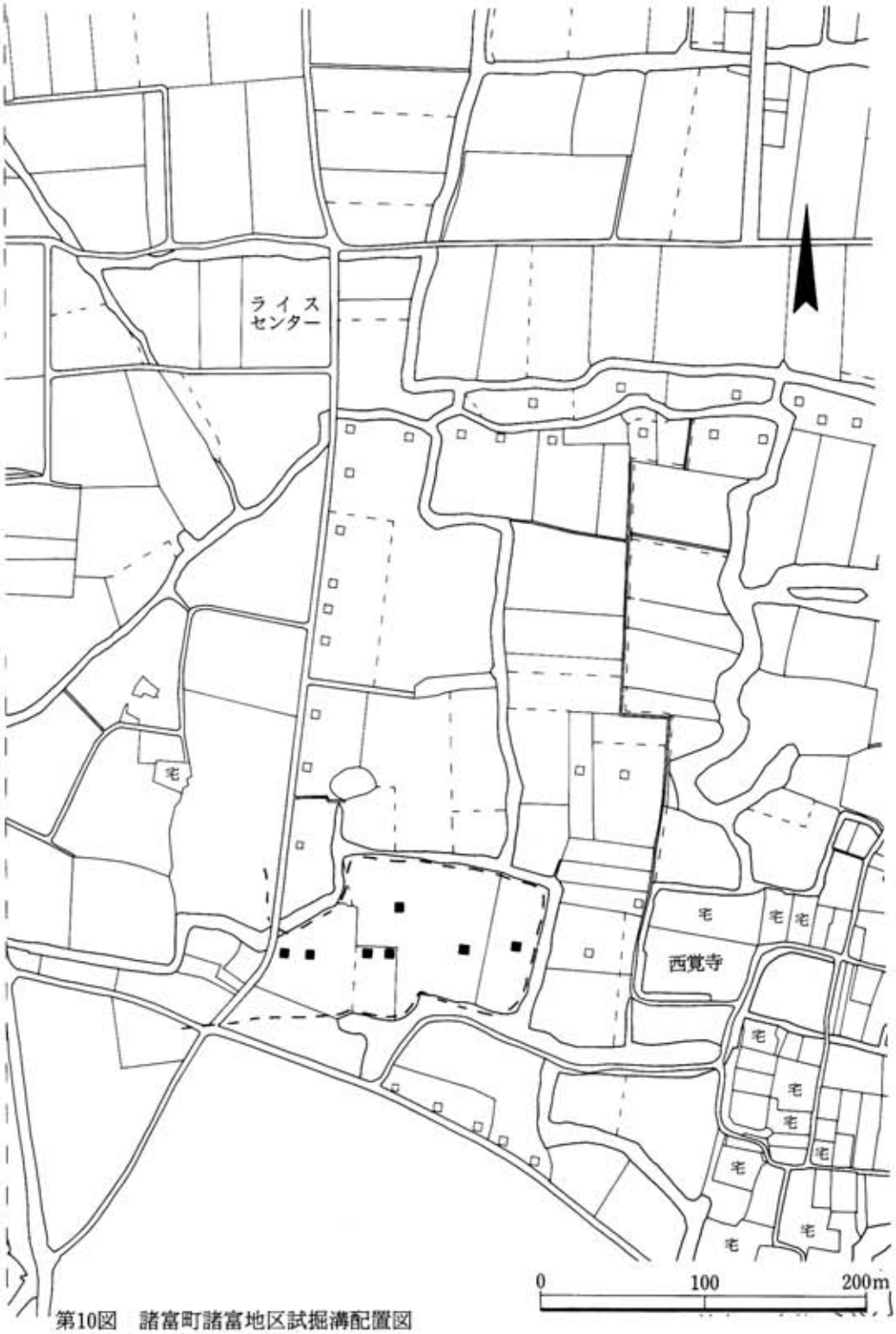
⑧　千代田町（詫田地区）

調査対象地は佐賀平野を南流する城原川と田手川に挟まれた標高3m程の低平な沖積地で、水田に利用されている。対象地区内には詫田西分貝塚・高志神社遺跡・森ノ木貝塚等の弥生時代を中心とする遺跡群が知られており、これらの遺跡の範囲確認を調査の主眼とした。

調査は水路予定地を中心に行い、110ヵ所の試掘溝を設けた。その内の21ヵ所で遺構を検出した。これら21ヵ所はいずれも上記3遺跡に係るものである。詫田西分貝塚では10ヵ所で遺構を検出した。遺構面は地表下10cm～15cmで、土壙・柱穴の他、貝層が広範囲に認められる。弥生時代中期前半の土器が多量に出土しており、周辺約80,000㎡にわたって当該期集落跡の存在が考えられる。　高志神社遺跡では2ヵ所で遺構を検出した。遺構面は地表下20cm～30cmで、土壙・柱穴が認められる。遺物は、弥生土器片、奈良時代～平安時代の土師器片が若干出土した。周辺約30,000㎡にわたって弥生時代から平安時代にかけての集落跡・弥生時代墳墓群の存在が考えられる。　森ノ貝塚では4ヵ所で遺構および遺物包含層を検出した。遺構面は地表下40cm～75cmで、柱穴などが認められる。包含層中には弥生時代中期の土器片とマガキ等の貝殻が含まれる。周辺約14,000㎡に当該期集落跡の存在が考えられる。



第9図　神埼町的地区試掘溝配置図



第10図　諸富町諸富地区試掘溝配置図

第11図　千代田町託田地区試掘溝配置図

2　佐賀西部地区の調査

1A、佐賀市嘉瀬地区
1B、佐賀市蓮池地区
2A、大和町久池井地区
2B、大和町川上南部第1地区
2C、大和町川上南部第2地区
3、三日月町織島東分地区
4、多久市多久東部地区
⑦、北浦遺跡
⑧、織島西分遺跡群
⑨、柴尾橋下流遺跡

第12図　佐賀西部地区周辺地形図（1）

① 佐賀市（嘉瀬地区、蓮池地区）

嘉瀬地区は、佐賀市の南西部に位置する。東に本庄江、西に嘉瀬川が隣接している。調査対象地は、この両河川により形成された標高２m～2.5mの沖積平野上に立地する。調査対象地の北側には、中原遺跡、十五遺跡などの中世～近世の遺跡が存在している。当地区の昭和57年度の工事面積は48haが予定されている。調査は、水路予定地について行い、30ヵ所の試掘構を設けた。その結果、表土下約20cmで粘質土になり、遺構・遺物は検出されなかった。

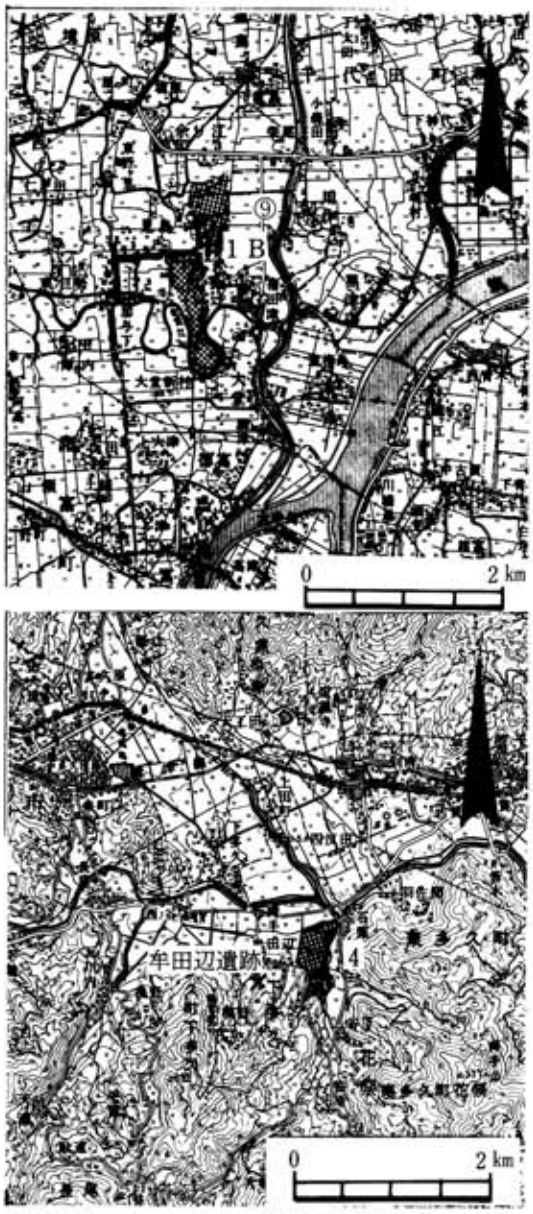
蓮池地区は、佐賀市の南東部に位置する。調査対象地は、城原川西岸の水田地帯で、周辺はクリークが縦横に走っており、標高は約3.5mである。調査対象地の東側に隣接して「長宜子孫」の連弧文鏡を出土した柴尾橋下流遺跡が、南側に弥生時代～中世の小松遺跡が存在する。

調査は、55haの対象地のうち、水路予定地を中心に行い、50ヵ所の試掘を行った。その結果、遺構は全く検出されず、土器の細片が数片出土したのみであった。

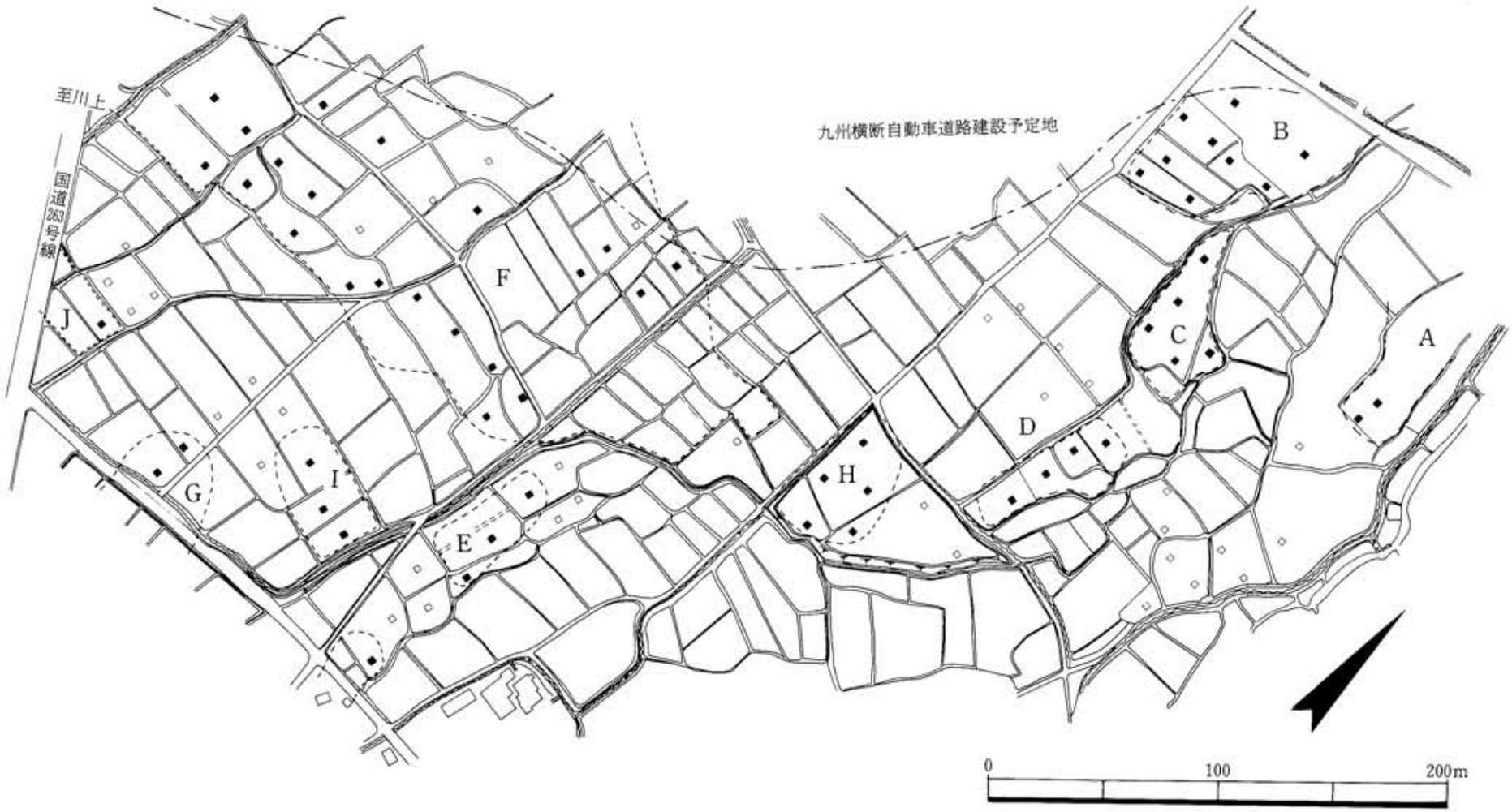
② 大和町（久池井地区、川上南部第１地区、川上南部第２地区）

久池井地区は、大和町大字久池井の10haを調査した。調査対象地は、大和町の東側に位置する。嘉瀬川の東岸、春日山の南麓の丘陵部から平野部に移行する部分にあたり、標高12～20mの水田地帯である。周辺は、肥前国府跡、肥前国分寺、国分尼寺跡など多数の遺跡が存在する。調査対象地西側も、肥前国府の推定区域に含まれており、昭和50年度に行った肥前国府跡の発掘調査で、柱穴、溝等が検出されていた。今回の調査においても国府関係遺構の存在が予想された。また条里の地割が現在の水田の溝などに残っている。

調査は、対象地域のほぼ全域について行



第13図、14図　佐賀西部地区周辺地形図（２）



第15図　大和町久池井地区試掘溝配置図

い、110ヵ所を試掘した。その結果46ヵ所の試掘構から弥生時代～平安時代の土器片と、柱穴・溝を検出した。A～J区の10ヵ所の合計29,000㎡に弥生時代～平安時代の遺跡の存在が確認された。A・B区が弥生時代～中世、C～J区が平安時代～中世を中心とする遺跡と推定される。

川上南部第1地区は、大和町大字東山田の約38haを調査した。調査対象地は、大和町のほぼ中央に位置する。嘉瀬川西岸の標高8～9mの水田地帯で、一部は密柑畑である。調査対象地内には、平野二本松遺跡、平野三本松遺跡など弥生時代～近世の遺物散布地が含まれていた。

調査は、水路予定部分および削平される水田・畑地部について、150ヵ所を試掘した。その結

第16図　大和町川上南部第2地区試掘溝配置図

果、数ヵ所の試掘溝から磨滅した土器細片が出土したものの遺構は全く検出されなかった。

川上南部第2地区は、大和町大字池ノ上の約45haを調査した。調査対象地は、大和町の南端に位置する。嘉瀬川西岸の標高4.5～5.5mの水田地帯で、一部畑地である。周辺は、弥生時代～中世の集落跡・墓地である池ノ上遺跡群・久留間遺跡群、前方後円墳の風楽寺南古墳などが存在し、多数の遺跡が密集した地域である。また調査対象地も、楢田三本松遺跡が含まれており、遺構の存在が予想された。

調査は、水路予定地および、削平される畑地部分について行い、150ヵ所を試掘した。その結果、33ヵ所の試掘溝から、多数の弥生土器片と柱穴・土壙などの遺構を検出した。表土下20～90cmに厚さ20～40cmの暗褐色土の遺物包含層があり、その下は明褐色土・明黄褐色土がみられ、これに遺構は掘りこまれていた。

調査対象地北側に南北約300m、東西80～150mの約35,000m²の範囲に、弥生時代を中心とする遺跡の存在が考えられる。

③　三日月町（織島東分地区）

調査対象地は、三日月町の東北部、大和町との町境に位置する。脊振山系高取山(標高441m)より派生した標高20～40mの丘陵上の畑地、および果樹園の約10haについて調査を実施した。調査対象地周辺には、織島東分遺跡、姫塚古墳（前方後円墳）等の著名な遺跡が集中し、また、調査対象地北側は、龍王遺跡の範囲に含まれており、遺跡の濃密な分布が予想された。

調査は、対象地区のほぼ全域について行い、87ヵ所を試掘した。その結果、56ヵ所の試掘溝から土壙・柱穴等の遺構と方墳1基を検出した。遺跡は6地区に分かれ、合計10,000m²にのぼる。遺跡の内容は、主に弥生時代～中世の集落跡と考えられるが、方墳1基を確認したことは注目される。この方墳は、一辺20mで、幅1.6mの周溝を有する。主体部が横穴式石室と思われ、方墳の実態が不明な佐賀平野においては貴重な資料となる。またIII区において検出した2本の溝跡は、約110mの間隔をもって、東西に延びており、条里に関係する溝跡と考えられる。

④　多久市（多久東部地区）

多久東部地区は、多久市南多久町大字下多久の22haを調査した。調査対象地は鬼ノ鼻山系の聖嶽(標高422m)北麓に形成された台地と両子山(標高337m)の西麓急傾斜地の間に形成された標高9～16mの谷部の水田で、中央部に石原川が流れ牛津川に合流する。この地点の西500mの標高30～40mの通称「勘太郎丘」は、弥生時代中期の住居跡69、甕棺墓229、V字状の大溝、古墳などが検出された牟田辺遺跡が存在する。また、南側の台地上には富岡古墳（前方後円墳）が、東側の山麓部には羽佐間古墳群、羽佐間城跡が存在する。

調査は、調査対象地区の全域に、約100ヵ所の試掘を行った。その結果、対象地区の大部分は北側を流れる石原川のたび重なる氾濫によって形成された流木などを混入する砂礫層で、遺構や遺物は検出されなかった。

第17図　三日月町織島東分地区試掘溝配置図

3　佐賀南部地区の調査

1 A、白石町　白石西第 1 地区
1 B、白石町　白石西第 4 地区
2 A、塩田町　南志田地区
2 B、塩田町　町分地区
2 C、塩田町　塩田(五町田)地区
2 D、塩田町　塩田(谷　所)地区
3 A、有明町　有明第 1 地区
3 B、有明町　有明第 4 地区
4、嬉野町　嬉野北部地区
5 A、武雄市　武雄南部地区
5 B、武雄市　武雄東部(甘久)地区
5 C、武雄市　〃　(半上・長谷地区)　(戸坂地区)
⑩、板橋遺跡

第18図　佐賀南部地区周辺地形図

① 白石町（白石西第一、白石西第二地区）

白石西第一地区は、白石町大字馬洗の約34haを調査した。調査対象地は、白石町西方に広がる沖積平野上に立地する。杵島山陵部から沖積部に落ちる標高2～3mのほとんど高低差のない水田部で、所々微高地が存在する。本地区の南に伸びる丘陵上には、妻山古墳群を始めとする多くの古墳があり、また、弥生土器散布地になっている。調査は、水路予定地、および、削平される部分を中心に行い、25ヵ所を試掘した。その結果、対象地区北西部の標高約3mの微高地上の3ヵ所の試掘壙、および対象地区北東部の標高2.4～3.1mの微高地上7ヵ所の試掘溝より、多くの柱穴・土壙等とともに土師器片が出土した。この両地点で合計8,300㎡の室町～江戸時代にかけての遺跡の存在が考えられる。

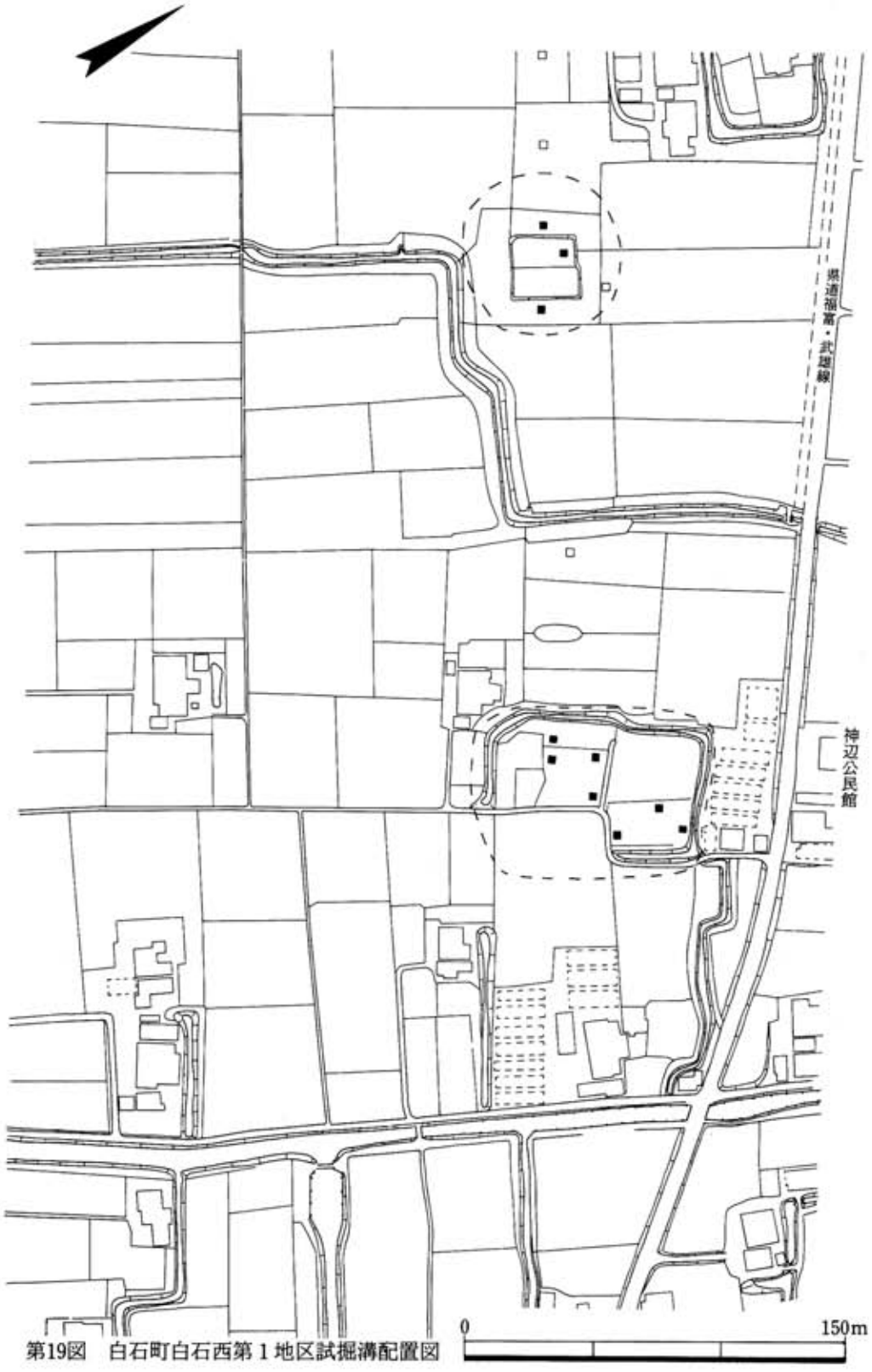
白石西第二地区は白石町大字堤の約13haを調査した。調査対象地は、第一地区の南東に位置し、立地もほぼ同様である。本地区の西部には、古墳時代～中世の集落跡である小島遺跡、北東部には、古墳時代後期から奈良時代におよぶ多くの遺物を出土した多田遺跡が存在する。調査は、水路予定地を中心に行い、15ヵ所を試掘した。その結果、本地区からは、遺構・遺物ともに検出されなかった。

② 塩田町（南志田地区、町分地区、塩田地区）

南志田地区は、塩田町大字久間の20haを調査した。調査対象地は、杵島山系より西側に流れ出る河川により形成された扇状地、および入江川によって形成される谷底平野上に立地する。南には、旧石器時代～古墳時代の南志田遺跡が存在する。また、東側の飯盛山中復からは石鍋片が出土している。調査は、対象地のほぼ全域について行い、80ヵ所の試掘溝を設けた。その結果、35ヵ所の試掘溝より、柱穴を検出し、縄文・弥生土器片、土師器片、白磁片が出土した。約44,000㎡の範囲に中世を中心とする遺跡の存在が考えられる。

町分地区は、塩田町大字馬場下の4haを調査した。調査対象地は、塩田町のほぼ中央に位置する。八幡川西側の、丘陵に挟まれた標高6～24mの狭長な谷部である。東側に、入江川遺跡・南下久間遺跡、西側に午坂古墳群が存在する。調査は、対象地全域について行い、16ヵ所の試掘溝を設けた。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

塩田地区は、塩田町大字五町田（18ha）と大字谷所（7ha）の二ヵ所を調査した。五町田地区は、塩田町の南側に位置し、唐泉山北東山麓の標高約4mの沖積平野上に立地している。周辺には、籾岳城跡や美南経塚が存在する。調査は、対象地の水路予定地を中心に行い、30ヵ所を試掘した。その結果12ヵ所から、柱穴および奈良時代の遺物（土師器・須恵器）を検出した。約45,000㎡の範囲に奈良時代の遺跡の存在が考えられる。谷所地区は、塩田町の南東部に位置する。鹿島川に囲まれた沖積平野で、この川の氾濫原であったと思われる。調査は、対象地の水路予定地を中心に行い、14ヵ所試掘した。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。



第19図　白石町白石西第１地区試掘溝配置図

第20図　塩田町南志田地区試掘溝配置図

第21図　塩田町塩田（五町田）地区試掘溝配置図

③　有明町（有明第一地区、有明第三地区）

有明第一地区は、有明町大字坂田の約58haを調査した。調査対象地は佐賀県の南西部、有明町の西側に位置する。杵島山麓の水田部に落ちる標高４～５ｍのほぼ高低差のない沖積平野上に立地する。調査対象地の西から南にかけての竜王崎方向に伸びる舌状丘陵上及びその山麓には、坂田二本松・三本松遺跡等の、弥生時代から古墳時代にかけての遺物散布地が存在する。特に竜王崎古墳群に代表される丘陵上の多数の古墳群は注目される。調査は水路予定地を中心に行い、20ヵ所の試掘溝を設けた。その結果、遺溝、遺物は検出されなかった。

有明第三地区は、有明町大字坂田の約25haを調査した。調査対象地は、第一地区の北東に位置し、立地は第一地区とほぼ同様である。本地区の北側には、辺田二本松・三本松遺跡を始めとする弥生時代の遺物散布地や、東明寺古墳群を始めとする古墳群がある。調査は、水路予定地を中心に行い、約20ヵ所の試掘溝を設けた。その結果、遺構、遺物ともに検出されなかった。

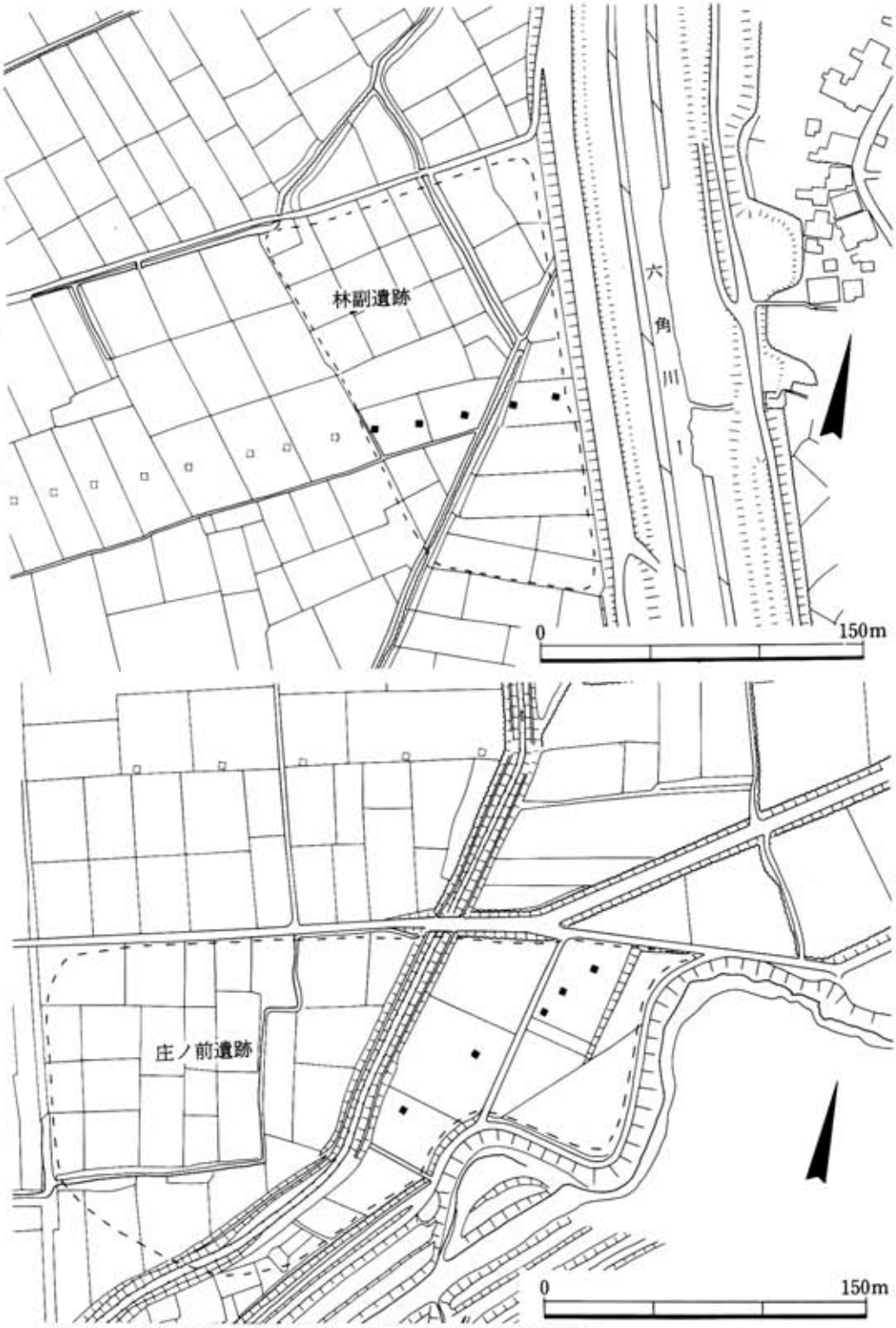
④　嬉野町（今寺地区）

今寺地区は、嬉野町の北部に位置する。嬉野町には山麓の丘陵地帯に縄文時代の遺跡や、近世の窯跡が存在している。調査対象地は塩田川西岸の標高26～33mの河岸段丘上に立地している。一帯はゆるやかな段丘が延びており遺跡の所存が考えられた。調査は対象地のほぼ全域について行い75ヵ所の試掘溝を設けた。この結果、調査区の中央部分は砂礫層が広がっており旧河川と考えられ、また両側の試掘溝からも遺構や遺物は検出されなかった。

⑤　武雄市（武雄南部地区、武雄東部地区）

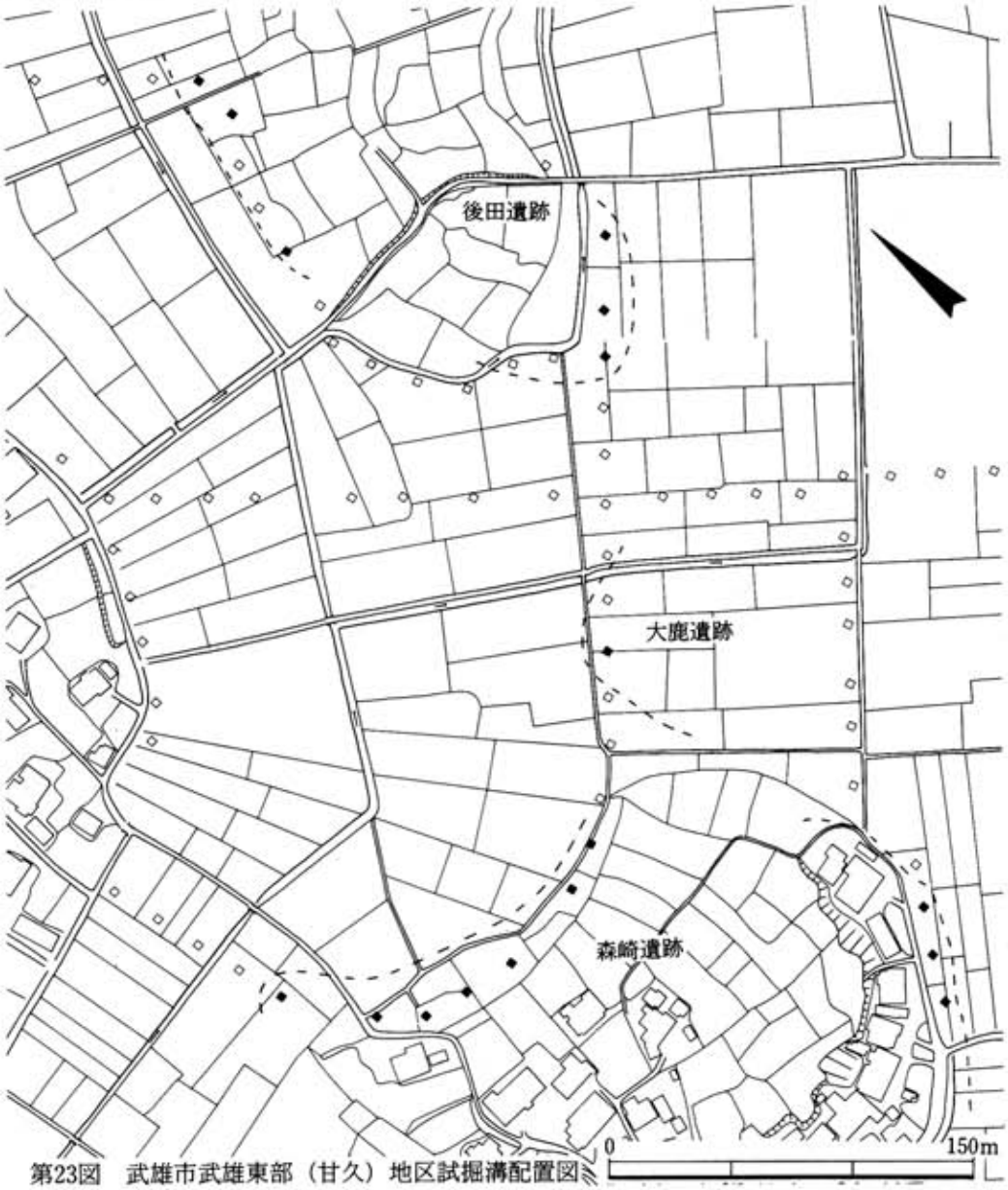
武雄南部地区は武雄市橘町の北方に位置する。調査対象地は、六角川の西岸にあたり、標高約４～５ｍの低湿地で水田地帯である。地区北端の水田は地表に弥生土器が散布しており、東方の杵島山麓には多数の古墳群の存在が知られている。　調査は、水路予定地について行い、80ヵ所の試掘を行った。その結果、２地区の７ヵ所の試掘溝から遺構・遺物を検出した。まず、林副地区（林副遺跡）からは、小川を挟んで西側より柱穴が検出され、弥生土器片が出土し、東側からは、耕作土直下の暗灰色粘質土より須恵器椀などが出土した。南方の庄ノ前地区（庄ノ前遺跡）からは、耕作土直下の黄褐色土より多数の土壙・柱穴が検出され、弥生土器片が出土した。水路予定地だけの遺跡の面積は、林副遺跡約170㎡、庄ノ前遺跡約2,300㎡であるが、庄ノ前遺跡の方は、広範囲に土器片が散布していることから遺跡の範囲は面的に広がるものと思われ、集落跡の存在が考えられる。また、南側には、井手橋遺跡、納手遺跡、茂手遺跡、みやこ遺跡が連なっており、これらの遺跡との関係が注目される。

武雄東部地区は、甘久地区、半上地区、戸坂地区の３ヵ所を調査した。甘久地区は武雄市朝日町の東南に位置する。調査対象地は、標高約４ｍの低湿地で、水田地帯である。この水田地帯には２つの独立丘があり、それぞれ周知の遺跡であるため、これらの周辺に遺跡の存在が予想された。調査は水路予定地について行い、112ヵ所を試掘した。その結果、３ヵ所の試掘溝か



第22図　武雄市武雄南部（片白・芦原）地区試掘溝配置図

ら遺構を検出し、24ヵ所の試掘溝から弥生時代～古墳時代の土器・石器が出土した。遺構を検出した試掘溝はそれぞれ離れており、森崎遺跡、大鹿遺跡、後田遺跡として弥生時代から古墳時代にかけての遺跡の存在が考えられる。半上・長谷地区、戸坂地区は、もとに武雄市朝日町の北方に位置する。調査対象地は、標高50～90mの狭小な谷あいに立地しており、棚田として利用されている。戸坂地区は、耕作土直下に岩盤がみられ、遺跡の存在は考えられなかった。半上・長谷地区は13ヵ所の試掘を行い、その結果、低所では黒曜石片が若干出土したが、遺構は検出されなかった。

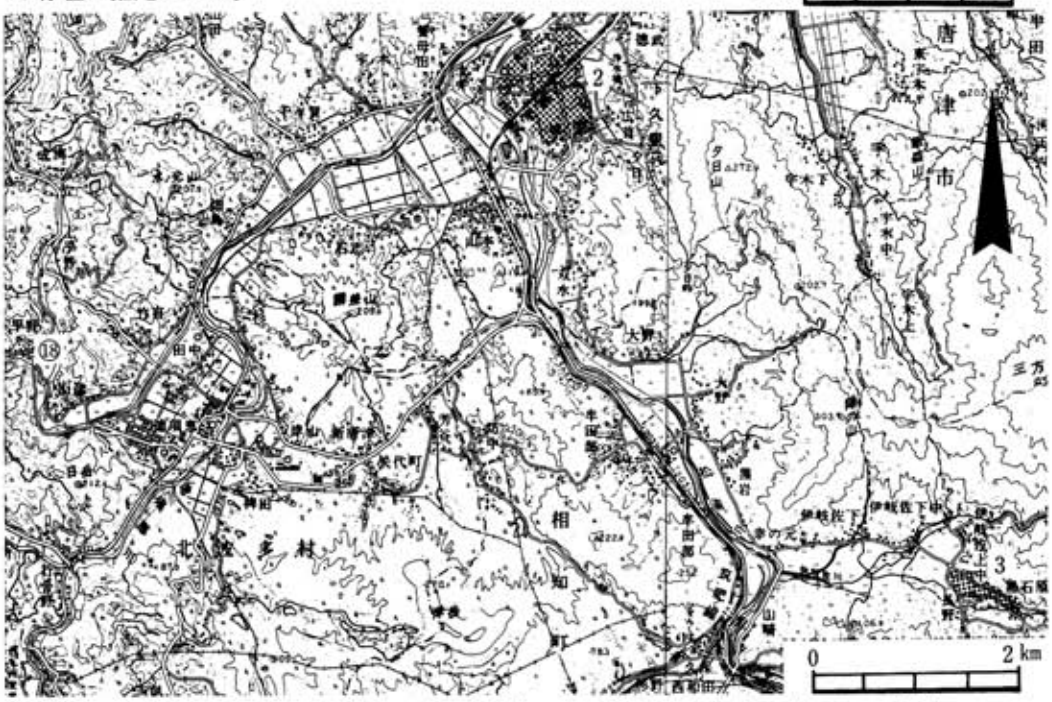


第23図　武雄市武雄東部（甘久）地区試掘溝配置図

4　佐賀北部地区の調査

①　西有田町（曲川地区、大山地区）

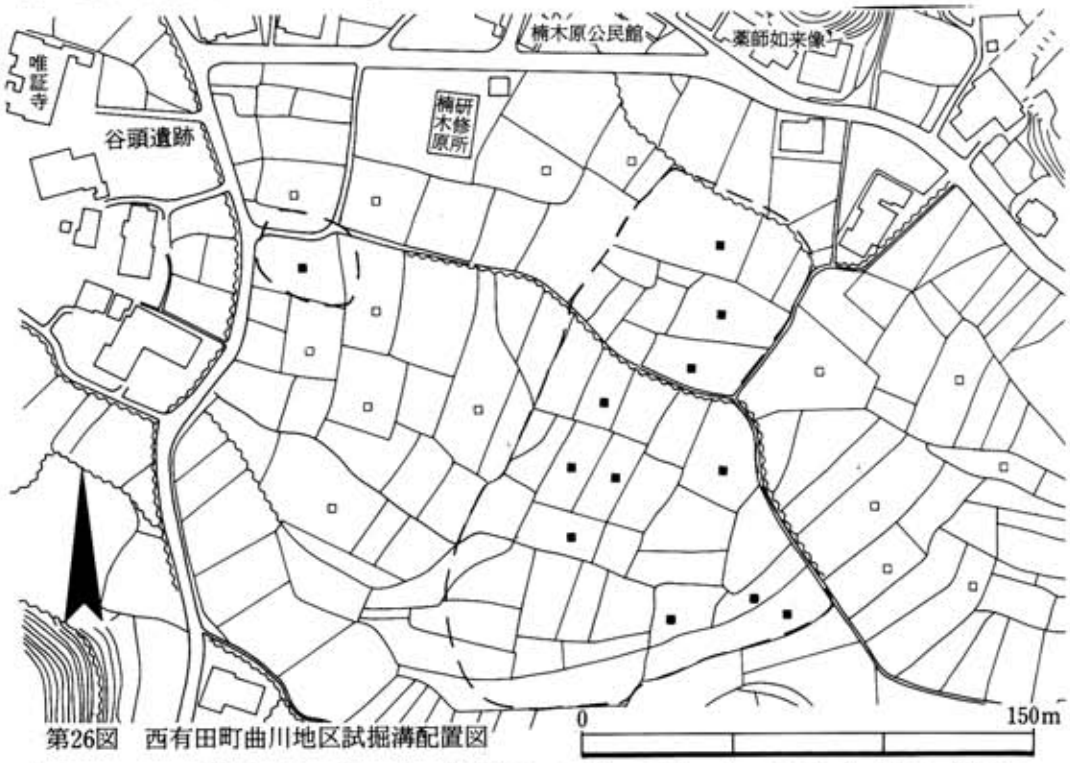
曲川地区は、西有田町大字曲川の約25haを調査した。調査対象地区は隠居岳（標高670.2m）から東へ派生する緩やかな丘陵（標高約90m）上に立地しており、現在、水田として利用されている。調査対象地の西には、谷頭遺跡、南には下境原遺跡など縄文時代遺跡の存在が知られている。調査は対象地のほぼ全域について行い約60ヵ所の試掘溝を設けた。その結果12ヵ所から土壙・柱穴を検出し、陶器片・黒曜石片が出土した。2ヵ所の合計約15,000㎡の範囲に縄文時代から近世にかけての遺跡の存在が推定される。



1A、西有田町　曲川地区　　2、唐津市　鏡・久里地区　　⑱、前田A・B遺跡
1B、西有田町　大山地区　　3、相知町　伊岐佐地区

第24・25図　佐賀北部地区周辺地形図

大山地区は西有田町大字大山の約11haを調査した。調査対象地区は国見山（標高776.7m）から東へ派生する丘陵の傾斜面（標高60～70m）上に立地しており、現在、水田として利用されている。調査地区は黒木原遺跡（縄文時代）の南側にあたり、周辺には谷平、柳谷、野瀬原遺跡といった旧石器時代の遺跡、および、谷平・富良田・柳谷・野瀬原・鎌ノ首遺跡などの縄文時代の遺跡の存在が知られている。



第26図　西有田町曲川地区試掘溝配置図

第27図　西有田町大山地区試掘溝配置図

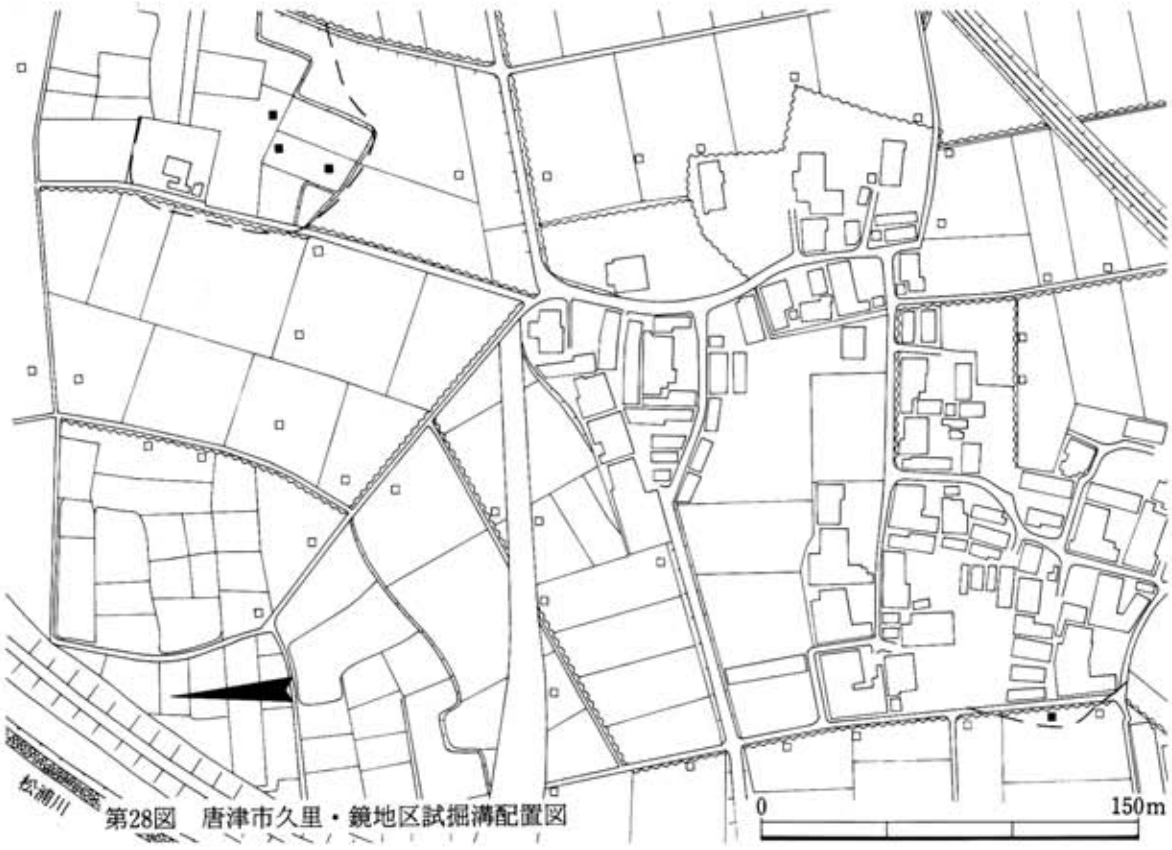
調査は対象地のほぼ全域について行い、約30ヵ所に試掘溝を設けた。その結果２ヵ所から柱穴を検出し、７ヵ所から黒曜石片・陶磁器片が出土した。遺構面は表土下30～60cmにみられ、特に多量の黒曜石片の出土は注目される。また、付近一帯から石鏃、石匙、削器、掻器等の石器が表採されている。約5,000㎡の範囲に縄文時代から近世にかけての遺跡の存在が推定される。

②　唐津市（鏡・久里地区）

鏡・久里地区は松浦川下流の東岸、国鉄久里駅の周囲約51haの水田地帯を調査した。調査対象地は、標高３m程の沖積平野と自然堤防上に立地している。調査区の周囲には、銅戈、銅鉾を出土した久里大牟田遺跡（久里小学校遺跡）や県下でも最大級の久里双水前方後円墳などが存在する。調査は、遺跡が分布すると思われる丘陵に近い部分、集落の周囲、松浦川の自然堤防上を中心に行い、137ヵ所の試掘溝を設定した。その結果、天神社の南側から柱穴・土壙などを検出し、土師器が出土した。また浦屋敷の西側の試掘溝からも中世の井戸跡を検出し、内部から土師器、白磁片が出土した。

以上のことから、天神社周囲の小高い部分約5,500㎡については古墳時代集落跡の存在が考えられ、浦屋敷集落の西側には、中世の遺跡の存在が考えられる。

なお圃場整備事業は、昭56年度施工であるため農林部と遺構部分についての保存について早

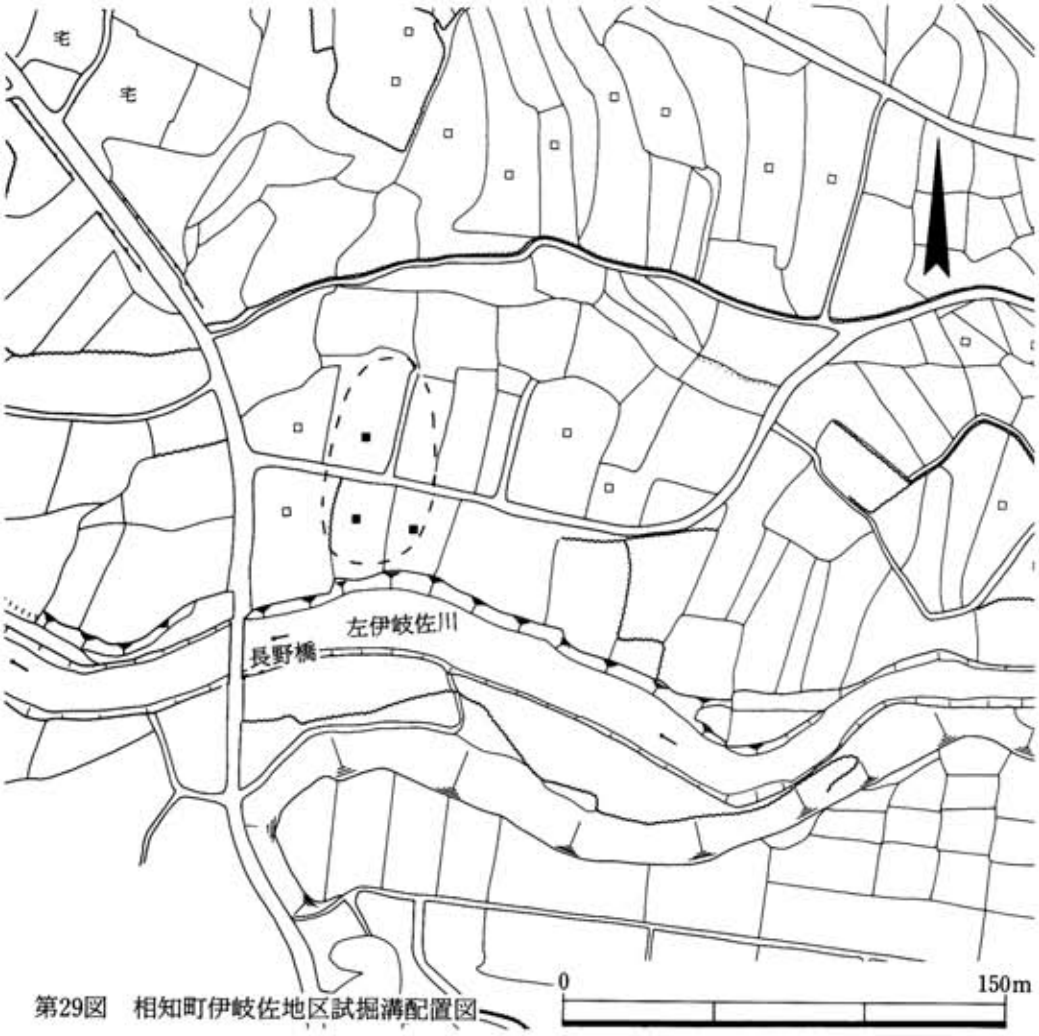


第28図　唐津市久里・鏡地区試掘溝配置図

急に協議し、水路部分（久里大堀、久里古川遺跡）についての発掘調査を引き続き実施した。

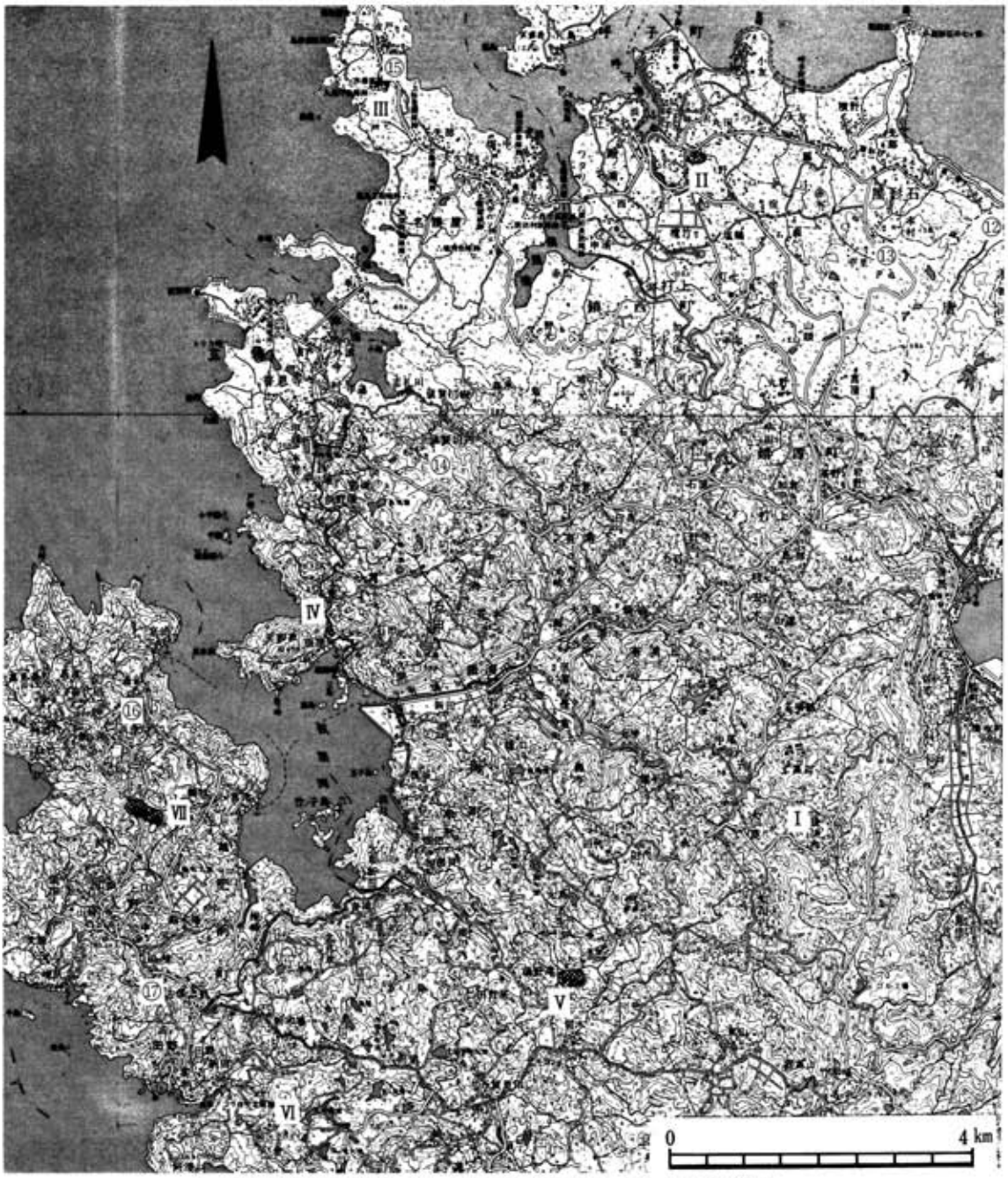
③　相知町（伊岐佐地区）

伊岐佐地区は、相知町大字伊岐佐に所在する。伊岐佐地区は、相知町北方の作礼山西麓に位置する。周辺を山にかこまれた盆地上にあり、盆地中央には、松浦川支流の伊岐佐川・右伊岐佐川・左伊岐佐川が流れ、河岸段丘を形成している。調査対象地は、右伊岐佐川北岸の河岸段丘上に立地する。周辺には、白木々場遺跡や伊岐佐古墳群など、縄文時代から中世にかけての遺跡が多数存在する。また、調査対象地西側には、中世の持山遺跡の一部が含まれ、今回の調査での遺構・遺物の検出が予想された。調査は、対象地のほぼ全域について行い、25ヵ所を試掘した。その結果２ヵ所の試掘溝より柱穴が確認された。柱穴は、地表下約50cm～60cmで検出され、柱穴内より青磁・土師器片が出土した。以上の事から、右伊岐佐川北岸の五反田地区に約2,000㎡の範囲で、中世の集落跡の存在が考えられる。



第29図　相知町伊岐佐地区試掘溝配置図

5　佐賀上場地区の調査



Ⅰ、唐津市後川内地区　Ⅵ、肥前町上ケ倉地区　⑮、波戸遺跡群
Ⅱ、鎮西町打上地区　Ⅶ、肥前町七ツ江地区　⑯、日南田代遺跡群
Ⅲ、鎮西町波戸地区　⑫、鞍(鼓)遺跡　⑰、田尾遺跡
Ⅳ、玄海町大鷹地区　⑬、上場遺跡
Ⅴ、肥前町切木地区　⑭、大橋遺跡

第30図　佐賀上場地区周辺地形図

IV　昭和56年度発掘調査の概要

1．夕ヶ里（ゆうがり）遺跡（略号ＹＧＲ）

遺跡の所在地

神埼郡東脊振村大字三津

調査主体者

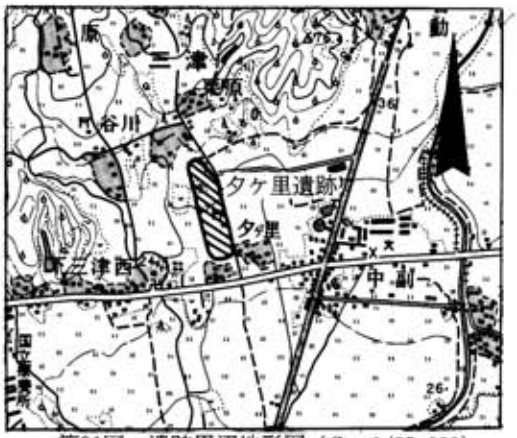
東脊振村教育委員会、佐賀県教育委員会

調査期間

昭和56年４月～昭和57年３月

調査面積　　12,000㎡

遺跡の概要



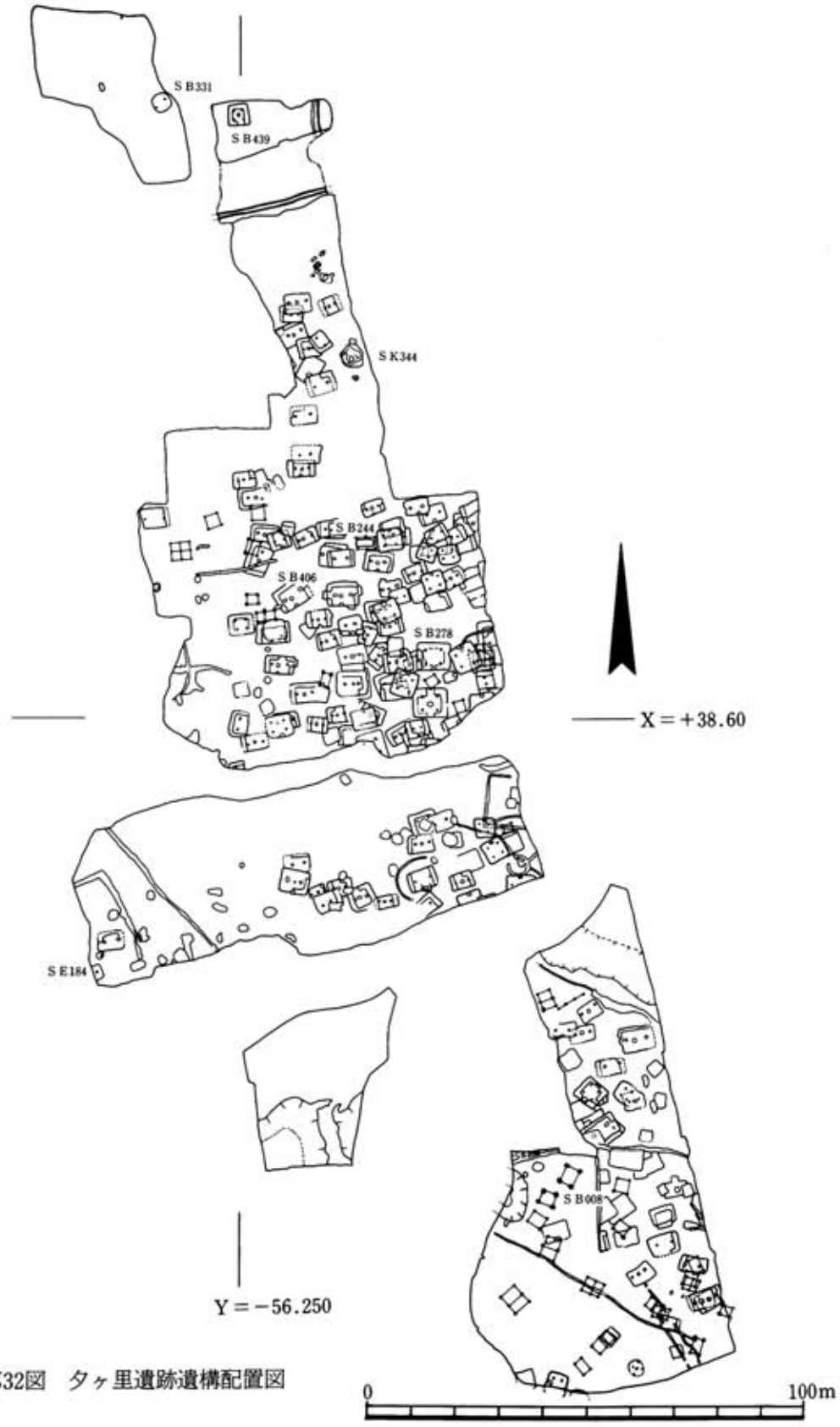
第31図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

遺跡は、東脊振村の北側に位置する。脊振山地に発する田手川の西岸、標高26～35ｍの三津洪積段丘上に立地しており、遺跡の東や南には田手川が形成した沖積地が広がっている。本遺跡の北東0.4㎞に、弥生時代後期から古墳時代後期にわたる墳墓群である西一本杉遺跡群が、南西0.4㎞に、弥生時代中期から古墳時代後期にかけての集落跡の西前田Ａ遺跡が、南西0.2㎞の隣接した地区には弥生時代前期末から中期前半を中心とする墓地群の西前田Ａ遺跡が存在する。

調査により検出された主な遺構は、縄文時代の竪穴住居跡１軒、弥生時代の竪穴住居跡172軒、甕棺墓３基、土壙墓３基、円形周溝１基、溝跡８条、古墳時代の竪穴住居跡36軒、大型土壙１基、土壙２基、弥生時代後期から古墳時代前期の掘立柱建物跡28棟、奈良時代の土壙11基、鎌倉時代の井戸跡3基、溝跡4条などである。縄文時代の竪穴住居跡（ＳＢ331）は、平面形か円形で、後期の鐘ヶ崎式土器・北久根山式土器を出土した。弥生時代の竪穴住居跡は、中期初頭のもの2軒、後期後半のもの170軒であり、前者は平面形が円形、後者は長方形である。古墳時代の竪穴住居跡は、20軒が前期、16軒が後期（６世紀）で、平面形は方形・長方形である。弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡は、多くがベット状遺構をもち、掘立柱建物跡には中央に長方形の土壙をもつ特異なもの（ＳＢ244）がみられた。鎌倉時代の井戸跡のうち１基は石組井戸である。

遺物は、土器がほとんどで、他に青磁・白磁・鉄鎌・鉄剣・鉄鏃・刀子等がある。土器は遺跡の主体を占める弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのものが特に多く、その量はコンテナ400箱以上にのぼり、種々の問題を持つこの時期の土器研究に豊富な資料を提供している。

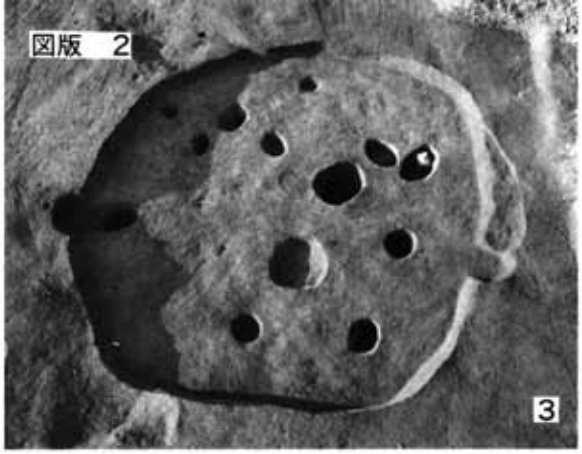
脊振山系の南麓は、古代人の生活の場として多く利用されており、多数の遺跡が存在している。夕ケ里遺跡もそのような遺跡の一つで、縄文時代から鎌倉時代までの多数の遺構が比較的良好な状態で残っている大規模な遺跡である。この遺跡の最大の特色は、原始社会から古代社会を経て中世社会に至る集落の構造を、同じ場所で比較、検討できることであり、特に地域古代国家の形成過程を考える資料として重要な遺跡である。



第32図　夕ヶ里遺跡遺構配置図

1．夕ヶ里遺跡９・10区全景(北から)
2．夕ヶ里遺跡10区全景(南から)
3．７区ＳＢ331住居跡(南から)
4．10区ＳＢ406住居跡(北から)
5．９区ＳＢ439住居跡(南から)
6．10区ＳＢ278住居跡(南から)
7．６区ＳＥ184井戸跡断面(南西から)
8．２区ＳＢ008堀立柱建物跡(南東から)
9．８区ＳＫ344土壙(北西から)
10．10区ＳＢ244堀立柱建物跡(北から)

図版 2


3

4

5

6

7

8

9

10

2．田手一本黒木遺跡（略号ＴＤＩ）

遺跡の所在地

神埼郡三田川町大字田手

調査主体者

三田川町教育委員会

調査期間

昭和56年４月～昭和56年８月

調査面積

1,000㎡

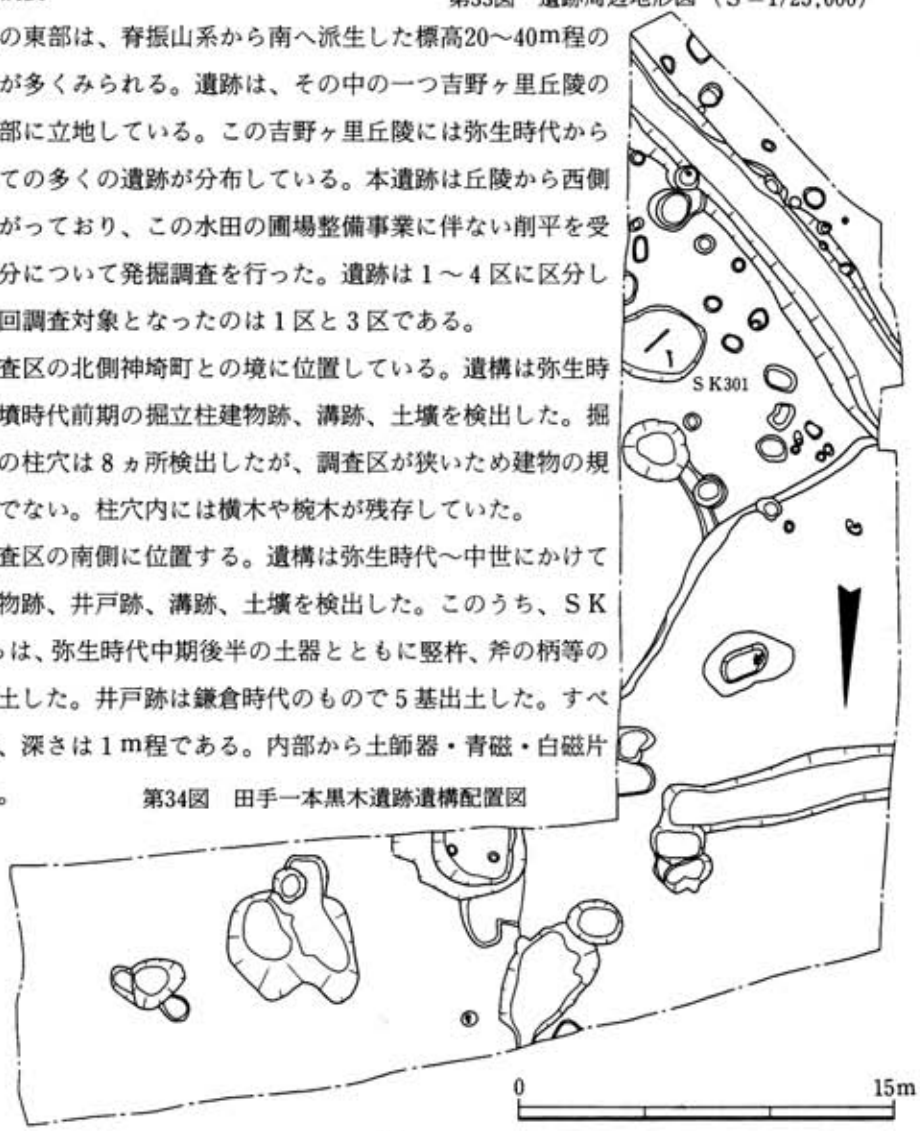
遺跡の概要

第33図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

佐賀平野の東部は、脊振山系から南へ派生した標高20～40m程の舌状の丘陵が多くみられる。遺跡は、その中の一つ吉野ヶ里丘陵の西側丘陵裾部に立地している。この吉野ヶ里丘陵には弥生時代から中世にかけての多くの遺跡が分布している。本遺跡は丘陵から西側の水田に広がっており、この水田の圃場整備事業に伴ない削平を受ける水路部分について発掘調査を行った。遺跡は１～４区に区分しており、今回調査対象となったのは１区と３区である。

１区は調査区の北側神埼町との境に位置している。遺構は弥生時代中期～古墳時代前期の掘立柱建物跡、溝跡、土壙を検出した。掘立柱建物跡の柱穴は８ヵ所検出したが、調査区が狭いため建物の規模は明らかでない。柱穴内には横木や椀木が残存していた。

３区は調査区の南側に位置する。遺構は弥生時代～中世にかけての掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡、土壙を検出した。このうち、ＳＫ301土壙からは、弥生時代中期後半の土器とともに竪杵、斧の柄等の木製品が出土した。井戸跡は鎌倉時代のもので５基出土した。すべて単掘りで、深さは１m程である。内部から土師器・青磁・白磁片が出土した。



第34図　田手一本黒木遺跡遺構配置図

1．田手一本黒木１区全景(西から)
2．田手一本黒木３区全景(南から)
3．田手一本黒木遺跡ＳＫ301土壙

3．神奥塚・直代遺跡（略号ＭＫＳ・ＣＫＴ）

遺跡の所在地

三養基郡三根町大字東津

調査主体者

三根町教育委員会

調査期間

昭和56年８月～昭和56年９月

調査面積

450㎡

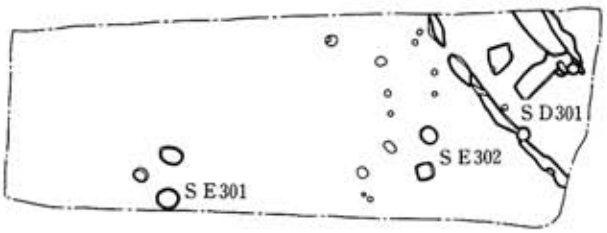
遺跡の概要

第35図　遺跡周辺地形図（S＝1/25,000）

遺跡は、標高３ｍ程の沖積平野の中域、井柳川の西岸に位置する。神奥塚遺跡は、宇佐八幡宮の西側に広がる鎌倉時代の集落跡である。遺跡の南側を排水路が通るためこの部分について発掘調査を行った。遺構は、溝跡１条、井戸跡１基、貝溜２、柱穴を検出した。井戸跡は径1.5ｍの円形で、深さ0.5ｍにて段を有する二段掘りである。深さは1.5ｍまで確認したが、さらに深い。内部から土師器・瓦器が出土した。貝溜は調査区の西側で二ヶ所検出した。調査区の西側は南側へ沼状に落ち込んでおり、この斜面に貝が堆積している。１号貝溜は広さ２ｍ、厚さ0.05～0.2ｍ、２号貝溜は広さ２ｍ、厚さ0.05～0.3ｍ、貝はすべてカキであり、貝層中より土師器片が出土した。

直代遺跡は、神奥塚遺跡の北側0.3㎞に位置する。古墳時代～中世に至る集落跡である。遺跡の西側を排水路が通ることとなり、この部分（Ⅲ区）の発掘調査を行った。遺構は井戸跡２、柱穴を検出した。井戸跡は径0.7～0.9ｍ、円形の単掘りで、深さは、1.5ｍまで確認したが、さらに深い。井戸枠等の施設はないが、内部から土師器、瓦器、白磁片が出土した。

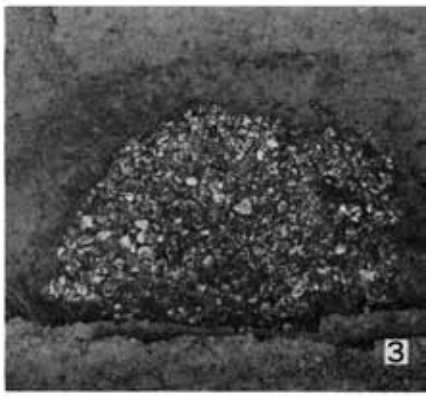
なお直代遺跡Ⅲ区東側のⅠ、Ⅱ区については、井柳川の改修に伴う発掘調査を昭和56年、県教育委員会が実施した。



直代遺跡（Ⅲ区）

第36図　神奥塚遺跡・直代遺跡（Ⅲ区）遺構配置図

図版 4



1．神輿塚遺跡全景（東から）
2．神輿塚遺跡ＳＥ101井戸跡
3．神輿塚遺跡貝留り
4．直代遺跡３区全景（東から）

4．詫田上地遺跡（略号ＴＡＣ）

遺跡所在地

神埼郡千代田町大字詫田

調査主体者

千代田町教育委員会

調査期間

昭和56年７月～昭和56年９月

調査面積

1,000㎡

遺跡の概要

第37図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

遺跡は佐賀平野のほぼ中央部に位置する標高４～５ｍの平坦な水田上に立地する。調査は水田部の貝塚（Ｉ区）と水路部（II区）の二ヵ所について実施した。

Ｉ区から検出した遺構は、径１ｍ、深さ約1.5mの円形の貯蔵穴数基と不整形土壙である。貯蔵穴のうち１基にはカキを主体とした貝殻が投げ込まれた状態で入っていた。遺物は、貯蔵穴と土壙の埋土から弥生前期の壺・甕・高杯などの土器と石器が出土した。

II区の貝塚は径10m余、厚さ0.3mのほぼ円形の小規模なものでカキを主体とする。貝塚の下から遺構は検出されなかった。貝塚からは多量の貝類とともに弥生前期の土器(壺・甕・高杯)と骨角器(銛)、動物骨が出土した。動物骨は哺乳類、魚類、鳥類、両生類のものがあり、このうち魚類を除く動物骨については鹿児島大学農学部獣医学科の西中川駿助教授に同定をお願いし表３、表４のような結果を得た。骨片はシカ・イノシシ類が多く、他にネズミ類、キジ、カモ類、ハト類、カエル類のものがあり、全般的に四肢骨が多いとのことであった。

今回の調査区から遺構として貯蔵穴と土壙しか検出されず、遺跡の中心は調査区の北側一帯にあると考えられる。狭い範囲の調査ではあったが、弥生前期の貝塚の検出と、貝類、獣骨、魚骨の出土は、当時の食生活を知る上で貴重な資料となる。

表３　詫田上地貝塚の自然遺物出土量　（g）

トレンチ層 ＼ 動物名		シカ	イノシシ	ネズミ類	鳥類	魚類	両生類（カエル類）	哺乳類（同定不能）	合計
A	混土貝層	1.7 (1)	－	－		4.1	－	1.7	7.5
B	混土貝層	13.1 (6)	10.5 (6)	－	6.8 (6)	2.2	－	13.9	66.3
	暗褐色土層	2.3 (1)	6.1 (2)	0.9 (1)	3.0 (4)	－	0.2 (1)	4.2	16.7
C	混土貝層	－	11.1 (5)	－	2.3 (3)	77.0	－	9.6	100.0
D	黒色混貝層	94.7 (4)	48.3 (6)	－	5.0 (5)	54.0	－	0.6	202.6
	混土貝層	1.2 (1)	87.3 (9)	－	…	41.3	－	3.5	133.3
E	混土貝層	63.2 (4)	36.8 (4)	－	2.9 (3)	89.8	－	5.2	197.9
重量合計		176.2	200.1	0.9	20.0	288.2	0.2	38.7	724.3
骨片数		(12)	(32)	(1)	(22)	－	(1)	－	－
推定個体数		2	3	1	5	－	1	－	－

表４　詫田上地貝塚の骨別出土骨片数

骨名 ＼ 動物種	頭蓋			胴骨						前肢骨						後肢骨						土骨片数
	頭蓋骨	下顎骨	歯	肋骨	胸椎	腰椎	仙椎	尾椎	肋骨	胸骨	烏口骨	肩甲骨	肩関節	橈骨	尺骨	手根骨	中手骨	指骨	寛骨	大腿骨	膝蓋骨	脛骨	足根骨	中足骨	趾骨	骨格別出
イノシシ	3		2					6				4	3			2	3		1	1	1	1	2	3		32
シカ	5 (2)		2					4			1	1					2		1				1			17
ネズミ類																				1						1
キジ類												1	1													2
カモ類											4		3	1	4	1				1			1			15
ハト類											1		2		2					1						6
カエル類													1													1
骨格別骨片数	8	2	2					10			5	1	7	6	10	1	4	3	1	3	2	1	2	3	3	74
	12(16.2%)			10 (13.5%)							37 (50.0%)								15 (20.3%)							

（ ）は骨片数。

図版 5

1．詫田上地遺跡１区全景
2．１区貝層断面
3．２区ＳＫ205土壙
4．２区ＳＫ201土壙

5．尾崎土生（おさきはぶ）遺跡（略号ＯＳＨ）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字尾崎

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

昭和56年５月～昭和57年２月

調査面積

7,000㎡

遺跡の概要

第38図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

遺跡は、城原川流域に形成された標高約６～８ｍの扇状地上に立地する。

調査は、水路部分（1・2・3・4・6・7区）と面的に削平を受ける畑部分（3・5・8・9・10区）に分かれている。

１区は、古墳時代後期の井戸跡１基、時期不明の円形周溝１基と４条の溝跡を検出した。円形周溝は、径約2.5ｍと小規模で周溝の他に遺構は認められなかった。溝跡のうち３条が幅２～３ｍと大型である。そのうち２条は80～90ｍの距離をもってほぼ東西に延び、他の１条はこの２条に直行して延びていることが確認された。溝跡よりの出土遺物は、各時代のものが存在し明確な時期決定は困難であるが、溝の形態、方向等により条里制との関連が考えられる。

３区は、水路部分と畑部分を調査対象とした。竪穴住居跡４軒、掘立柱建物跡10棟以上、井戸跡13基、祭祀遺構２ヵ所等を検出した。竪穴住居跡は平面形が方形と長方形をなす。一辺5.0～6.0ｍの規模で、炉跡等は認められなかった。削平が著しく出土遺物に混入があるが、弥生時代中期末～後期前半頃に位置づけられる。掘立柱建物跡は、１間×１間を６棟、１間×２間を４棟検出した。弥生時代後期のものと中世のものに分けられる。井戸跡は、すべて平面形が円形である。弥生時代後期前半と古墳時代後期、中世の各時代のものが存在する。その中で、ＳＥ303は、弥生時代後期前半頃に位置づけられる多量の土器類を一括廃棄した状態で出土しており、良好な資料である。

５区は、３区東側に隣接する。検出した遺構は竪穴住居跡２軒、掘立柱建物跡６棟以上、井戸跡９基、土壙２基、円形周溝１基である。竪穴住居跡は、平面形が方形と長方形のものがみられ方形のものは、古墳時代後期の所産である。掘立柱建物跡は、１間×１間が５棟、１間×２間が２棟あり、そのうちＳＢ503は１間×２間の規模で、比較的大形で長方形に近い柱穴掘り方をもつ弥生時代後期の建物跡で建物の床面下に一辺２ｍの方形土壙を伴なっており注目される。井戸跡は、すべて円形をなしており、弥生時代後期前半と古墳時代後期のものがある。ＳＥ501と502は、弥生時代後期前半に位置づけられ、甕・壺・高杯等とともに、鏃先・石斧

の柄・紡錘車・糸巻き・火鑽臼等の木製品が多量に出土した。円形周溝は、径4.0～5.0mで周溝内より弥生時代終末期の高杯を中心に甕・壺が出土した。

6区は、本遺跡の西端部域に位置し、古墳時代後期と中世・近世の遺構を検出した。遺構には竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡31棟以上、井戸跡16基、土壙、溝跡がある。掘立柱建物跡は、1間×1間、1間×2間、2間×2間、2間×3間、2間×4間と5間分の柱穴列がある。井戸跡は、平面図形が円形・隋円形で、古墳時代後期のもの12基、中世及び近世のもの4基である。SE609井戸跡は、平面隋円形、長径2.1m、短径1.8m、深さ1.2～1.3mで、土師器甕・甑・須恵器片とともに、木製の把頭飾1点が出土した。時期は、6世紀代と考えられる。

8区は竪穴住居跡2軒、井戸跡1基、土壙2基、溝跡2条を検出した。竪穴住居跡は、平面形が長方形で、ベット状遺構をもつ。竪穴住居跡と土壙はともに弥生時代終末期である。

9区は竪穴住居跡7軒、井戸跡2基、土壙2基、土壙墓1基を検出した。竪穴住居跡は、平面形が方形・長方形で、弥生時代終末～古墳時代前期のもの2軒、古墳時代後期のもの5軒である。弥生時代終末期の住居跡より甕・壺・鉢・高杯が出土した。土壙墓は素掘りのもので、土師器椀2個体が出土した。

10区では、竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡16棟以上、井戸跡7基、土壙墓1基、溝跡を検出した。掘立柱建物跡は、1間×1間、1間×2間、2間×3間、2間×5間の規模のものがある。出土遺物は少なく時期決定は困難だが、柱穴の形態、規模等により大部分は、中世の所産であると考えられる。井戸跡は、平面形が円形をなし、土師器小皿・杯等が出土した。土壙墓には、土師器杯と黒色土器椀各1個体を副葬していた。

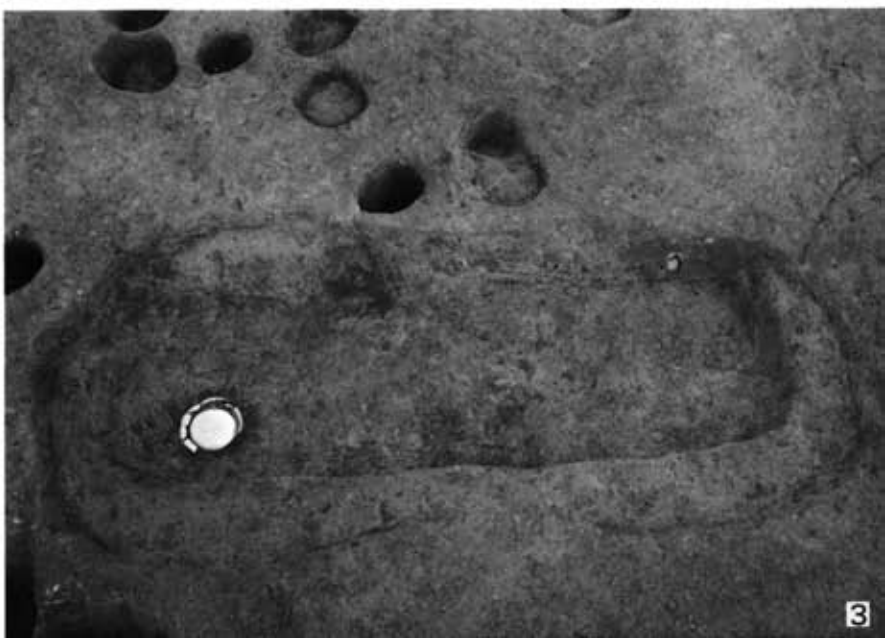
以上のように、本遺跡は、弥生時代より中世・近世にかけて長期間営まれた遺跡であり、各時期の多数の遺構が検出された。特に弥生時代後期の遺構は、住居跡と建物跡、井戸跡があり、出土遺物も多量の木製品や一括土器等があり、佐賀平野におけるこの時期の様相を考える上で良好な資料となりうる。また、木製の把頭飾は、他に類例を見ない形態、文様をもっており注目される資料である。

図版　6

SE609井戸跡出土木製把頭飾(約⅓)

1．10区全景(東から)
2．9区SB902住居跡(北から)
3．5区SB503建物跡(北から)

図版 8



1．3区P311内土器出土状況(南から)
2．6区SE609井戸跡(西から)
3．9区SP901土壙墓

6. 志波屋遺跡群（志波屋一本松遺跡 SWI／志波屋五本松遺跡 SWG）

遺跡所在地

神埼郡神埼町大字志波屋

調査主体者

佐賀県教育委員会

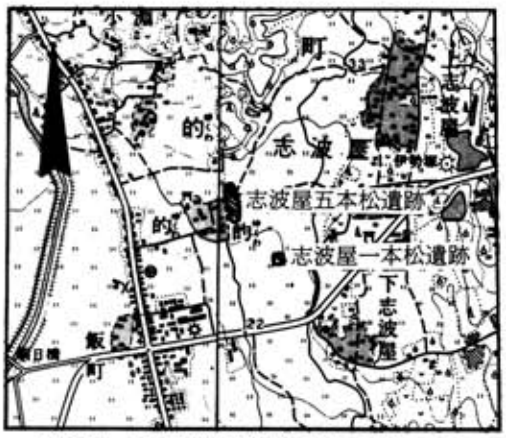
調査期間

昭和56年９月～昭和57年２月

調査面積

5,000㎡

遺跡の概要



第39図　遺跡周辺地形図（S＝1/25,000）

遺跡は脊振山系から派生する丘陵に挟まれた谷部に立地する志波屋一本松遺跡と、その西側の丘陵上に立地する志波屋五本松遺跡に分かれる。

志波屋一本松遺跡は谷部のほぼ中央を調査した。検出した遺構は、壺棺墓、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土壙である。壺棺墓は調査区の東南隅から１基検出した。縄文時代晩期（夜臼式）のもので、壺の口縁を甕で覆っていた。竪穴住居跡は３基で、弥生時代終末～古墳時代前期のものである。掘立柱建物跡は６軒あり、規模は１間×２間、１間×３間、２間×３間のものがみられる。遺物は遺構内より弥生時代終末～古墳時代前期の土器が出土した。

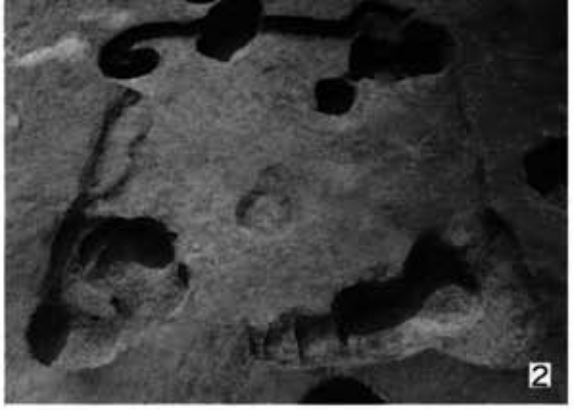
志波屋五本松遺跡は丘陵の東側縁辺部を調査した。調査区の北半分が水田耕作で遺構上面が削平されており遺構の残りが悪い。南半分は弥生時代中期から古墳時代後期の竪穴住居跡が多数切り合っており、その切り合いの前後関係を把握するのが非常に困難であった。竪穴住居跡は弥生中期の一軒が円形で他は方形・長方形で合計80基以上が検出された。他に東西に延びる溝跡、土壙、柱穴群などが検出された。遺物は遺構上面を覆っている黒色土層中から多量の弥生土器、土師器、須恵器が出土し、遺構からは弥生後期後半～古墳時代前期の土器が溝跡や、住居跡から一括して出土している。特に古墳時代前期の土器（壺・甕・高杯・器台）が一括して出土していることは興味深い。その他の遺物として鉄鏃、鉄鎌、鉄斧、石包丁、石斧、石鏃等がある。

志波屋一本松遺跡は竪穴住居跡と掘立柱建物跡から構成された集落跡で、時期は弥生時代終末から古墳時代前期である。集落跡は調査区の外側にも広がると考えられる。縄文時代晩期（夜臼式）の壺棺の出土が注目される。志波屋五本松遺跡は弥生時代中期から古墳時代後期にかけての大集落跡で、中心は弥生時代終末から古墳時代前期である。住居跡から出土した弥生時代終末から古墳時代前期にかけての一括資料は佐賀平野における今後の編年作業で好資料となると考えられる。

図版 9

1．志波屋一本松遺跡全景(東から)
2．志波屋遺跡五本松全景(西から)
3．志波屋五本松遺跡上段全景(北から)

図版 10



1．志波屋一本松遺跡ＳＪ011甕棺墓
2．志波屋一本松遺跡ＳＢ010住居跡
3．志波屋一本松遺跡ＳＢ003住居跡
4．志波屋五本松遺跡ＳＤ001溝跡(西から)
5．志波屋五本松遺跡ＳＢ328住居跡
6．志波屋五本松遺跡ＳＢ321、317、326、311住居跡(北から)
7．志波屋五本松遺跡ＳＢ322住居跡
8．志波屋五本松遺跡ＳＢ357住居跡(北から)

7．北浦（きたうら）遺跡

遺跡の所在地

小城郡小城町大字松尾・北浦

調査主体者

小城町教育委員会、佐賀県教育委員会

調査期間

昭和56年８月～昭和57年１月

調査面積

4,000㎡

遺跡の概要

第40図　遺跡周辺地形図（S＝1/25,000）

遺跡は、小城町西北部に位置し、祇園川東岸の河岸段丘上に立地する。周辺には旧石器時代の尖頭器を出土する岡本遺跡、曽畑式・阿高式土器の出土した龍王遺跡、弥生時代～古墳時代の集落・墓地跡の本告遺跡、赤司遺跡が存在する。また遺跡南側の丘陵頂部には千葉氏の居城であった中世山城跡の千葉城跡が存在する。昭和55年度の第一次調査（A～E区）にひきつづき、今回、第二次調査（F・G・H区）を行った。

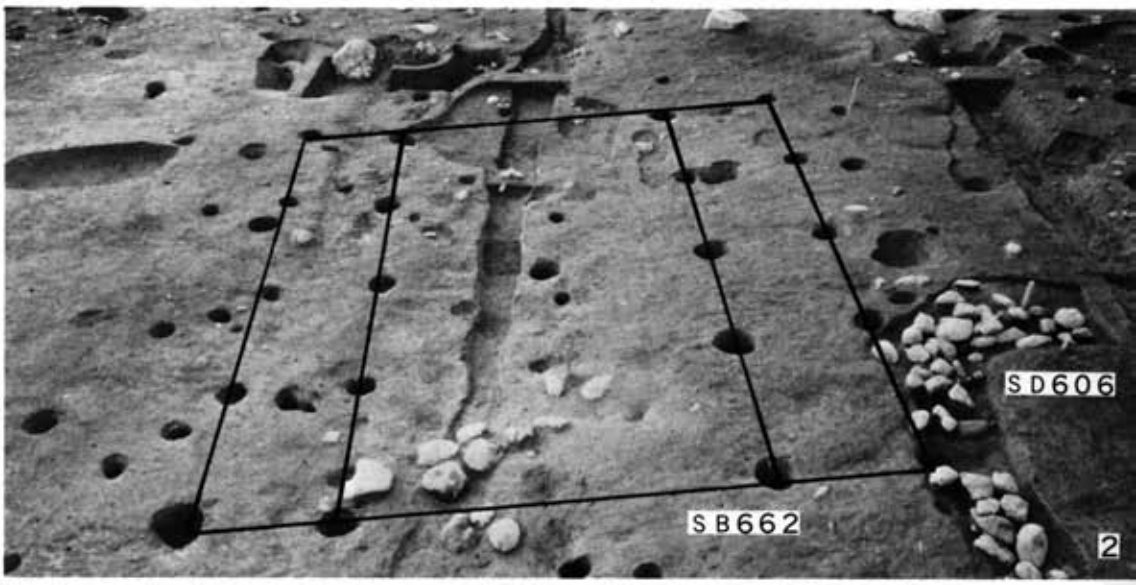
検出した遺構は、掘立柱建物跡16棟以上、土壙35基、溝跡８条、石垣状遺構、柱穴などでほとんどが室町時代のものである。遺構は、溝跡に囲まれた部分に密集しており、遺跡は環溝をめぐらした館跡と考えられる。掘立柱建物跡は、主軸を東西か南北にとり、１間×２間、１間×３間、２間×２間、２間×３間、２間×４間のものがみられる。F区のSB651建物跡は柱穴の規模が大きく、数回建て替えた痕跡が認められ、G区SB662建物跡は南側と北側に庇がつき、この遺跡では最も規模の大きな建物跡である。土壙は祭祀土壙、土壙墓と考えられるものもあるがほとんどが不整形であり、性格の不明なものが多い。土壙の埋土や床面から多量の土師器小皿・杯、火鉢等が出土した。溝跡のうちSD603とSD604は同時期に営まれており、建物跡を囲む濠であったと考えられる。溝の断面はV字状に近い逆台形になっている。石垣状遺構（SX606）は、F区の南西端にあり、花崗岩の河原石を用いて、ほぼ東西に組まれている。この石垣状遺構はG区のSD606溝跡につながる。

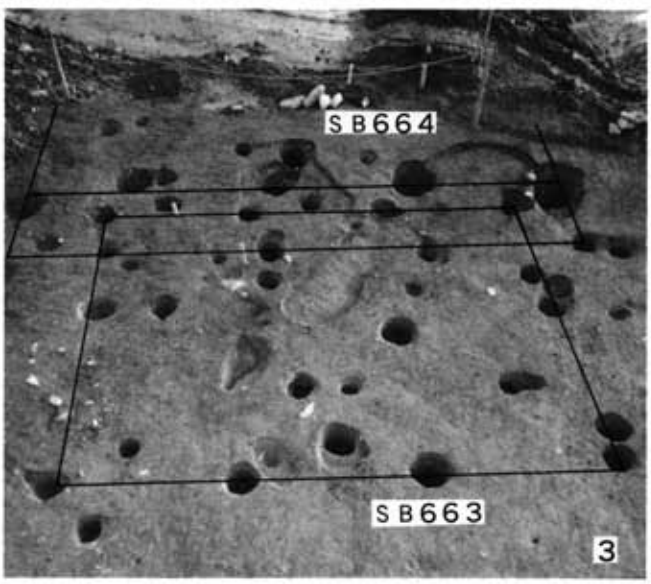
出土した遺物は、土師器小皿・杯、火鉢、土鍋、元・明時代の輸入陶磁器（青磁・白磁・天目茶碗）、銅銭などがある。土師器は14～16世紀のもので数型式に分類が可能である。その他の遺物として縄文時代早期土器片（押型文土器）、後・晩期土器片（西平式、黒川式）、弥生土器片、石器（尖頭器・石鏃・掻器・石包丁・紡錘車）がみられる。

北浦遺跡一帯は、これまで文献などにより室町時代にこの地に勢力をはった千葉氏および、その家臣の館跡と考えられていたが、今回の調査結果は、そのことを裏づけるものである。

第41図　北浦遺跡Ｆ・Ｇ地区遺構配置図

図版 11





1．北浦遺跡、F区全景(南から)
2．G区南側遺構(東から)
3．G区、SB663、664建物跡
4．F区、SX606石垣状遺構(南から)

8．柴尾橋下流遺跡（略号ＳＢＫ）

遺跡所在地

佐賀市蓮池町大字古賀

調査主体者

佐賀市教育委員会

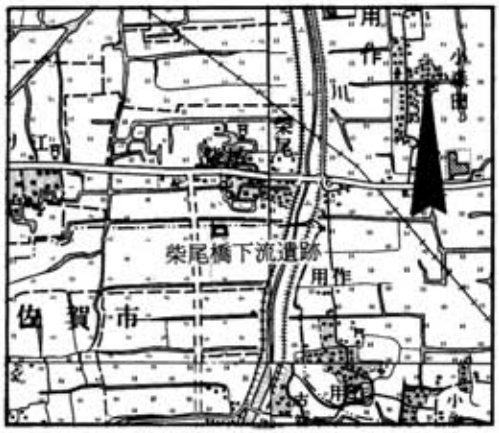
調査期間

昭和56年９月～昭和56年10月

調査面積

1,200㎡

遺跡の概要



第42図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

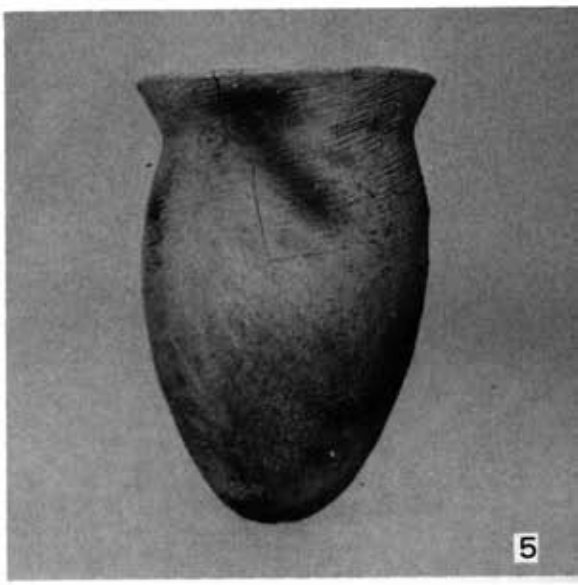
柴尾橋下流遺跡は佐賀市蓮池町大字古賀に所在し、遺跡北端は千代田町とクリークをはさんで接している。蓮池町は佐賀平野の中央東寄りに位置し、北側に脊振・天山山系が連なり、南側には有明海が広がっている。また脊振山系に源を発する中地江川・佐賀江川・城原川が蛇行しながら流れ、それらの堆積作用で肥沃な平野が形成されている。遺跡付近の標高は約3.5mで周囲にはクリークが縦横に走っている。今回の調査は掘削される水路予定地について実施した。

検出した遺構および遺物は、弥生時代終末～古墳時代前期、歴史時代にかけてのもので、土壙32基、土器溜り１基、溝５条、貯蔵穴１基、井戸跡５基等である。これらの遺構は調査区の中央から東部にかけて集中しており、西半分は井戸・土壙等数基を数えるにすぎない。当地区は調査前は水田であったが、伝え聞くところによると遺跡一帯は数十年前に地下げをしたらしく、クリーク北側の千代田町の水田と比べると数十cm低く、遺構上面の破壊も進んでいた。

遺物には、土器・石器・鏡等があり、この中で、弥生時代終末～古墳時代前期に位置づけられる一連の土器が出土したが、それらはここ数年、佐賀市琵琶原遺跡、大和町肥前国府跡、東脊振村西前田遺跡、基山町千塔山遺跡等で相次いで検出されている。これらは様式論的に見て土師器と認定されつつあるが、いわゆる「古墳」から検出していないことなどからそれらの時期が弥生時代終末か古墳時代前期であるものかの論議を呼んでいる。また、溝より出土した鏡は「長宜子孫」の連弧文鏡で県下では７例目の出土である。この種の鏡は埋葬遺構から出土することが多いが、今回検出した鏡は溝からの出土ということで埋葬遺構出土のそれとは性格を異にするものと考えられる。

最後に遺跡の広がりであるが、元来、千代田町の柴尾遺跡と佐賀市の柴尾橋下流遺跡は同一の遺跡としてとらえることができ、今回の調査区はその南西部に位置すると考える。ちなみに、昭和55年度の確認調査では当遺跡の西方や南方ではほとんど遺物を採集することができなかった。

図版 12



1．柴尾橋下流遺跡調査区全景
2．ＳＫ028貯蔵穴(東から)
3．ＳＤ004溝跡出土連弧文鏡（⅓）
4、5．ＳＫ028土壙出土土器

9．織島西分（おりしまにしぶん）遺跡群（杉町遺跡SGM　織島西分A遺跡ONA）

遺跡所在地

小城郡三日月町大字織島

調査主体者

三日月町教育委員会

調査期間

昭和56年４月～昭和57年２月

調査面積

3,730㎡

遺跡の概要

第43図　遺跡周辺地形図（S＝1/25,000）

織島西分遺跡群は南側だけに開く山麓小平野の西辺部に展開しており、杉町遺跡、織島西分A・B・C遺跡等によって構成されている。昭和56年度はこれらの内、杉町遺跡と織島西分A遺跡について調査を実施した。

杉町遺跡は標高16m程の微高地縁辺に立地しており、東側は緩やかな凹地となっている。

遺構としては掘立柱建物・方形竪穴・土壙・柱穴等が検出された。掘立柱建物は14棟を数えるが、２間×２間が１棟、１間×２間が４棟、他はすべて１間×１間である。総体的に小規模であり、大半は小屋的なものと思われる。方形竪穴は一辺４m程であるが、性格は不明である。

出土遺物はほとんどが土師器で、わずかに須恵器が混じる。土師器の竈は県下では６例目の出土である。出土遺物より遺構の大半は古墳時代後期の所産と思われるが、一部中世のものも含む。

織島西分A遺跡は杉町遺跡の北方300m、標高18m程の丘陵裾部に立地する。地形から見ると、遺跡の中心はより高位の西側緩斜面に展開しているものと思われる。

遺構としては竪穴住居跡１軒、掘立柱建物２棟の他、方形竪穴・土壙・溝跡等を検出した。竪穴住居跡は平面形が4.1m×3.7mの整美な方形を呈し、４本の主柱穴を有す。また東壁には竈の痕跡が認められる。掘立柱建物はともに２間×２間の総柱式で、倉庫と思われる。これらの遺構は出土した土師器等より古墳時代末期の所産と考えられるが、調査区南側の溝や土壙は弥生時代中期初頭のものであろう。

織島西分遺跡群の所在する小平野は、円山古墳・地蔵山前方後円墳などに代表されるように古墳時代の後半には特に栄えた地域であり、今回の調査はそれらの首長層を輩出した古代集落の一端を明らかにした点で重要であったと言える。

1．杉町遺跡Ⅰ区全景(北から)
2．杉町遺跡Ⅱ区全景(西から)
3．杉町遺跡Ⅲ区全景(西から)
4．杉町遺跡Ⅳ区全景(南から)
5．織島西分A遺跡全景(南から)
6．織島西分A遺跡SK002土壙、SB001住居跡(南から)

10. 板橋（いたばし）遺跡（略号ＩＴＢ）

遺跡の所在地

武雄市橘町大字片白

調査主体者

佐賀県教育委員会

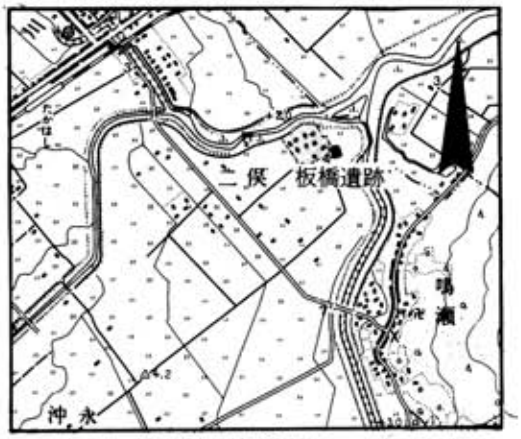
調査期間

昭和56年９月～昭和56年11月

調査面積

950m²

遺跡の概要



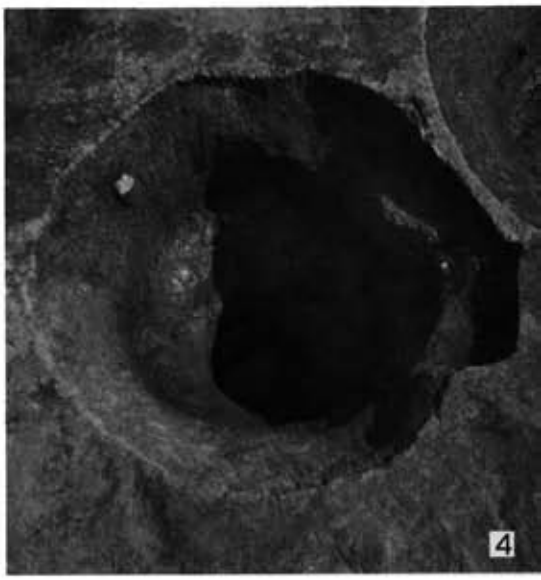
第44図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

遺跡は武雄市の東側、武雄川が六角川に合流する地点に位置し、すぐ南には、杵島山がそびえている。遺跡の北側には、森崎遺跡（縄文～古墳時代遺物散布地）があり、南側には、樋ノ口遺跡（弥生～古墳時代遺物散布地）、鳴瀬古墳群が存在する。調査は水路予定部分の３区と、削平をうける４区の２ヵ所について実施した。

３区から検出した遺構は、井戸跡６、土壙７、柱穴などである。井戸跡は平面形が円形・方形・隋円形で、単掘りのものと二段掘りのものがみられた。規模は直径0.8～4.0m、深さ1.0～2.3mで、二段掘りのものが規模が大きい。土壙は平面形が不整形のものが多い。遺物は鎌倉時代のものが多く、土師器杯・小皿、陶器、青磁、白磁、銅銭、漆器、木製品、金属製品（釘・キセルの吸口）、骨角器などがある。特に井戸跡からは、これらの遺物が一括して良好な状態で出土した。また、井戸跡からは、流れこんだ状態で弥生後期の土器片が、まとまって出土した。

４区から検出した遺構は、掘立柱建物跡４以上、土壙７、溝跡１、柱穴などである。掘立柱建物躍は４間×３間（7.7×4.3m）、２間×１間（４×２m）、５間×２間（10×４m）、４間×２間（８×４m）の４棟が明確である。４棟のうち１棟が東西棟で他はすべて南北棟である。柱穴の内部には柱根が残っているものもみられた。土壙は、平面形が長方形・円形・隋円形のものである。遺物は、遺構上面を覆っていた灰褐色土の遺物包含層から、土師器杯・小皿、陶器、青磁、石鍋片などの鎌倉時代のものと、近世の陶磁器が多く出土した。その他、鍋銭（北宋銭）、青銅製鈴も出土した。遺構に伴う遺物は少ない。

以上のように板橋遺跡は、一部弥生時代後期の遺物を出土したが、その主体は、鎌倉時代以降にある。この時期は「長島庄」の発展段階にあたり、輸入陶磁器や宋銭の出土などから、水上交通の要衝である地の利を生かした貿易港としての性格を持った重要な遺跡であるといえる。



1．板橋遺跡Ⅳ区全景
2．板橋遺跡Ⅲ区全景(西から)
3．Ⅳ区ＳＫ428土壙(北から)
4．Ⅲ区ＳＥ305井戸跡(北から)

11. 久里大堀(くりおおぼり)、久里古川(くりふるかわ)遺跡（略号ＫＫＲ）

所在地

唐津市大字久里

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

昭和56年９月～10月

調査面積

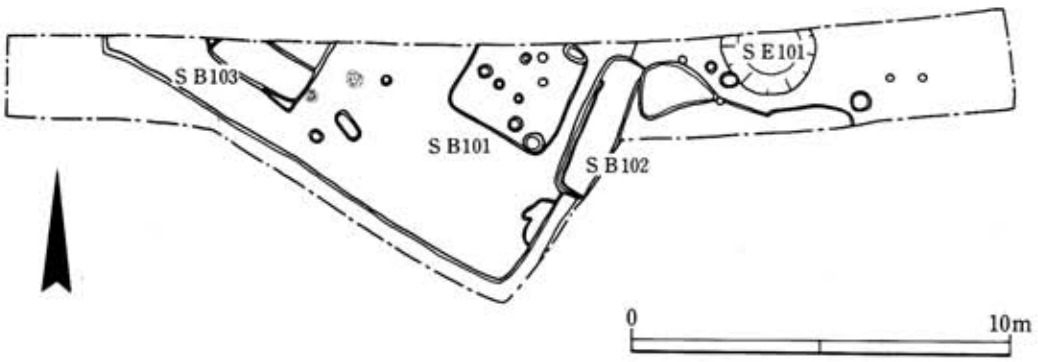
150㎡

遺跡の概要

第45図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

遺跡は、松浦川東岸の標高２～３ｍの自然堤防上に立地する。久里大堀遺跡は、天神社を中心として南北に広がる遺跡であるが、遺跡の南端を排水路が通るためこの部分について調査を行った。遺構は、古墳時代前期の竪穴住居跡４軒と平安時代の井戸跡１基を検出した。住居跡は調査区が限られていることや、削平を受けている部分があり、完堀できたものはない。ＳＢ101住居跡は3.1×3.0ｍの方形で壁高は0.1ｍ、住居跡の東寄りに焼土が残存する。ＳＢ102住居跡は、東側が削平を受けており西側の１ｍが残存する。南北の幅4.0ｍ、壁高は0.3ｍが残存し周壁に小溝を掘っている。ＳＢ103住居跡は、南側の４分の１程を調査した。南北の幅2.7ｍ、南側に１ｍのベット状遺構を設けている。これらの住居跡からは、甕・高杯・小型丸底壺が出土した。井戸跡は、調査区の東側より一基検出した。円形の単掘りの井戸で、径2.5ｍ、深さ１ｍ程である。井戸枠等の施設は発見されなかったが、土師器や黒色土器片が出土した。

久里古川遺跡は、鎌倉時代の井戸跡１基を検出した。径2.3×1.9ｍの隋円形で、深さは1.5ｍ程である。深さ0.7ｍの所に段を有する二段掘りの井戸である。井戸枠等の施設は発見されなかったが、内部から糸切り底の土師器、瓦器、白磁片が出土した。



第46図　久里大堀遺跡遺構配置図

1．久里大堀遺跡全景(西から)
2．久里大堀遺跡全景(東から)
3．ＳＢ101・102住居跡
4．ＳＢ101住居跡
5．ＳＢ103住居跡
6．久里古川遺跡ＳＥ201井戸跡

12. 鞍(鼓)遺跡（略号ＴＺＹ）

遺跡の所在地

唐津市湊町大字奏

調査主体者

佐賀県教育委員会

調査期間

昭和56年10月～昭和56年11月

調査面積

2,200㎡

遺跡の概要

第47図　鞍(鼓)遺跡遺構配置図（S＝1/25,000）

遺跡は、唐津市の北部に位置する。玄界灘に面した上場台地縁辺部の標高150mの低丘陵上に立地している。縄文時代晩期から古墳時代後期にかけての遺跡で低丘陵の東側緩斜面一帯に約5,000㎡の広がりをもつと推定される。

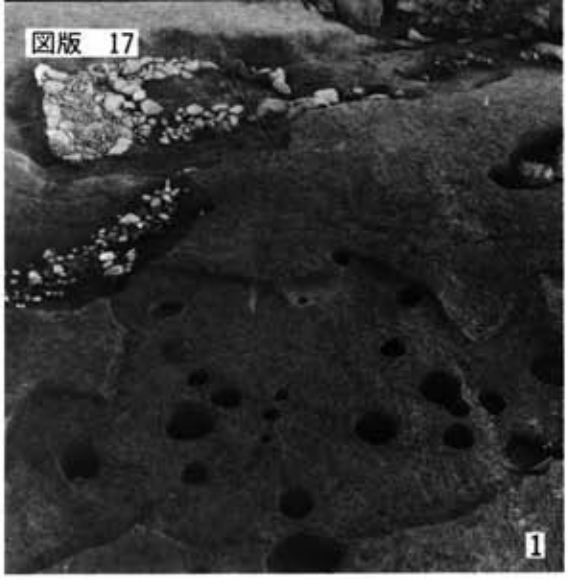
検出した遺構は、弥生時代の竪穴住居跡・甕棺墓・土壙墓・石囲い土壙墓、および古墳である。他に縄文晩期（夜臼式）の遺物包含層も確認された。竪穴住居跡は弥生時代前期のもので、1基検出した。甕棺墓は弥生時代前期から中期のもので合計30基検出した。棺は斜め・直立・倒立して埋置している。土壙墓・石囲い土壙墓も甕棺墓と同時期である。古墳は6基確認したが、そのうち4基を調査した。みな破壊されており残りは悪い。3基が6世紀末から7世紀初頭のもので、1基は掘り方のみ残っており、時期は不明である。

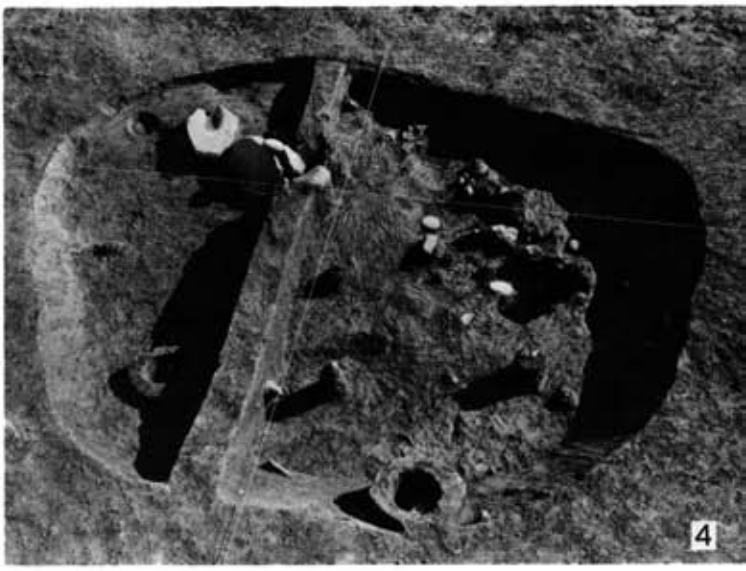
遺物は、甕棺の副葬品として、管玉、勾玉、ガラス小玉等が出土し、古墳の石室内から須恵器の壺・長頸壺・杯・高杯・平瓶・提瓶、装飾品(勾玉・管玉・切子玉・小玉・練玉)、鉄製品（刀・鏃・留金）が出土した。

本遺跡は、縄文晩期から古墳時代にかけての複合遺跡である。上場台地における多数の弥生時代埋葬遺構の検出は、海岸部の大友遺跡、宇木汲田遺跡の埋葬遺構と対比でき、この地域の墓制を知る上で好資料になる。

図版　16

鞍(鼓)遺跡遠景





1．靴(鼓)遺跡調査区近景
2．A区ＳＪ001甕棺墓
3．A区ＳＪ003･004･005甕棺墓
4．A区土壙
5．A区石囲い土壙墓
6．A区古墳石室内遺物出土状況

13. 上場遺跡（略号ＵＷＢ）

遺跡の所在地

唐津市大字湊

調査主体者

唐津市教育委員会

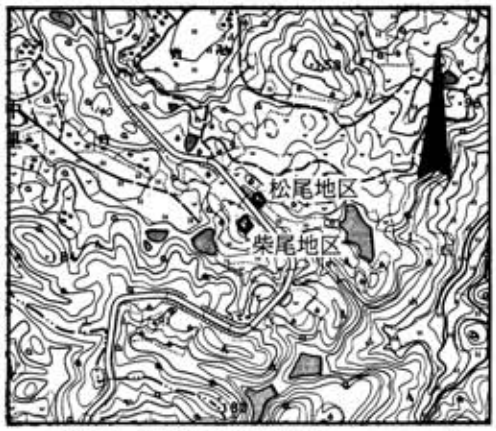
調査期間

昭和56年９月～昭和56年10月

調査面積

1,400㎡

遺跡の概要



第48図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

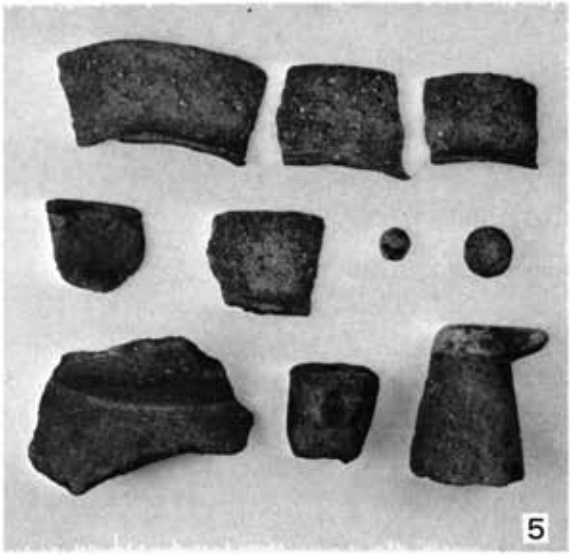
遺跡は唐津市屋形石東南部の広域農道に沿った玄界灘を一望する標高135mの丘陵上に位置する。遺跡の周辺には先土器時代の野原遺跡、縄文時代・弥生時代では夜臼式甕棺や弥生前・中期の甕棺を多数出土した鼓遺跡、古墳時代では相賀古墳・鼓古墳群がある。

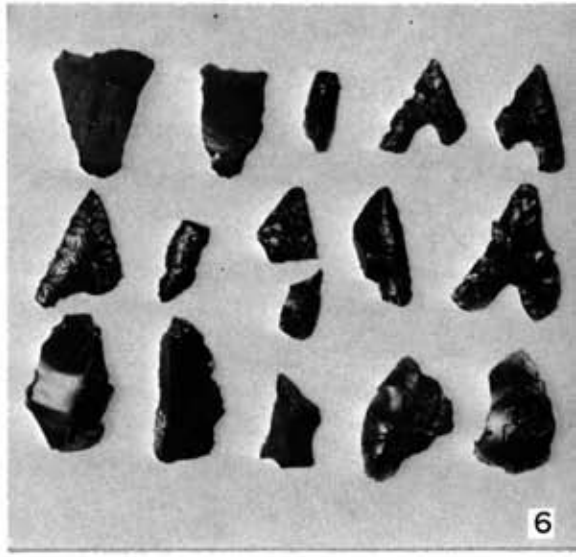
検出した遺構は竪穴住居跡９軒、倉庫状遺構２基、土壙28基、掘立柱建物跡１棟であり時代はほぼ古墳時代中期にあたる。住居跡は柴尾地区に８棟、松尾後地区に１棟あり、前者では平面形が方形７、円形１で馬蹄形に配列されている。方形のものは５世紀と考えられる。松尾後地区の住居跡は不整な方形を呈し、時期は弥生後期末～古墳時代である。全体として長軸４～５m、短軸3.5～４mの平面形が方形のものが多い。長・短軸の比はほぼ６：５である。倉庫状遺構は２基でいずれも不整な楕円形である。大小２種があり深さは住居跡に比べ深い。食物等の貯蔵を考慮してのことか。長短軸比は５：３である。土壙は柴尾地区では住居跡群の内側にある遺構の空白地帯に面して南東部に７基、南西部に６基、北西部に５基、北東部に８基が検出された。松尾後地区でも住居跡の東側に２基存在する。平面形態では楕円形８、隅丸長方形５、不整形３であり、大型１、中型３、小型12であった。

遺物には弥生式土器、土師器、石器、その他がある。柴尾地区の土器は５世紀の土師器壺が多く内湾口縁と二重口縁とがある。松尾後地区では弥生後期末の甕や後期末～５世紀の壺、高杯も含まれている。石器ではそのほとんどが先土器、縄文時代であり、台形石器、細石刃、石鏃、磨製石斧、スクレイパーがある。その他では土製の玉が出土している。

遺構はその主軸によって北、北より西へ振れるもの、北より東へ振れるものの３種があり３つの小期に分類出来る可能性を有する。残存状況の良好な柴尾地区の遺構は全体として丘陵の周辺部に住居跡、倉庫状遺構が馬蹄形にならび、その内側に土壙（一部屋外炉の可能性のあるもの２基）が住居に対応するように配置されている。丘陵の中心部は遺構の空白地帯であり広場としての機能を有するものであろう。

図版　18





1．上場遺跡遠景
2．上場遺跡全景(柴尾地区、西から)
3．柴尾地区２号住居跡
4．柴尾地区７号土壙
5．上場遺跡出土土器、土製品
6．上場遺跡出土石器

14. 大橋（おおはし）遺跡（略号ＯＨＳ）

遺跡の所在地

東松浦郡玄海町大字今村

調査主体者

玄海町教育委員会

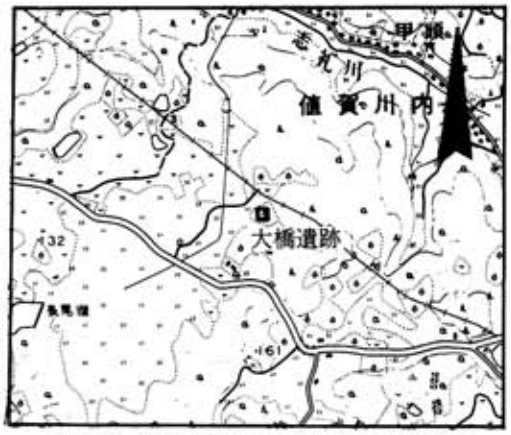
調査期間

昭和56年９月

調査面積

500㎡

遺跡の概要

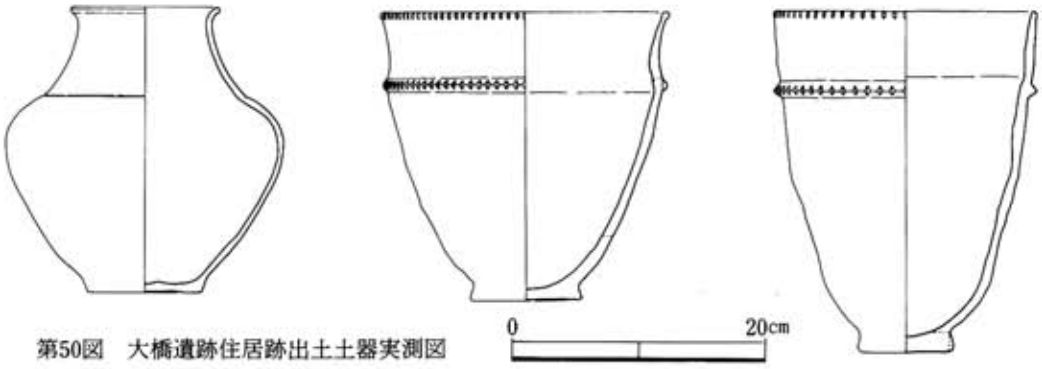


第49図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

玄海町は東松浦半島の西部に位置し、北は鎮西町、東は唐津市、南は肥前町に隣接している。遺跡は玄海町のほぼ中央に位置し、丘陵の頂上部に立地している。遺跡の周辺には、棚橋遺跡、稗田遺跡、牧ノ地遺跡、塩仮田遺跡などの縄文時代の遺物散布地が知られている。また北側には、中世の値賀城跡（山城）が存在する。今回の調査に先がけて行った確認調査では、土壙と小穴を確認し、石鏃・剝片等の遺物が出土した。

今回の調査では、竪穴住居跡１軒、土壙１基を検出した。遺構は表土から約20cmで検出された。住居跡は古墳時代のもので、平面形が方形で、一辺約５ｍ、深さ20～40cm。柱穴は３ヵ所確認した。内部にカマドや炉は認められなかった。埋土は暗褐色土で、一部攪乱をうけていた。土壙は縄文時代晩期のもので、住居跡に上部を切られており、残存状態は悪い。平面形は円形に近く、直径約１ｍ。土壙の埋土からは、多量の土器片が出土した。土器は夜臼式で、壺・甕・浅鉢などの器種がある。

現在の段階で、佐賀県において縄文時代晩期遺跡の調査例は少なく、唐津市女山遺跡、菜畑遺跡、肥前町押川遺跡、鎮西町中野遺跡などで住居跡・土壙が検出されている。菜畑遺跡などで縄文時代晩期土器の編年が問題となっており、この大橋遺跡出土の土器は晩期土器編年上貴重な資料となる。



第50図　大橋遺跡住居跡出土土器実測図

1．大橋遺跡全景
2．ＳＢ001住居跡
3．ＳＫ002土器出土状況

15. 波戸遺跡群（永田A・C遺跡HNG　鳥ノ巣遺跡HTR）

遺跡の所在地

東松浦郡鎮西町大字波戸

調査主体者

鎮西町教育委員会

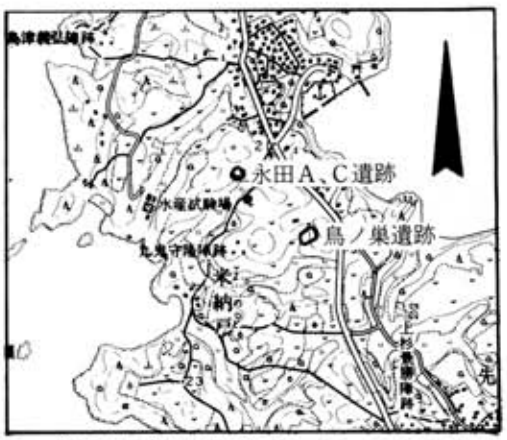
調査期間

昭和57年1月～昭和57年3月

調査面積

1,750㎡（鳥ノ巣1,100㎡）

遺跡の概要

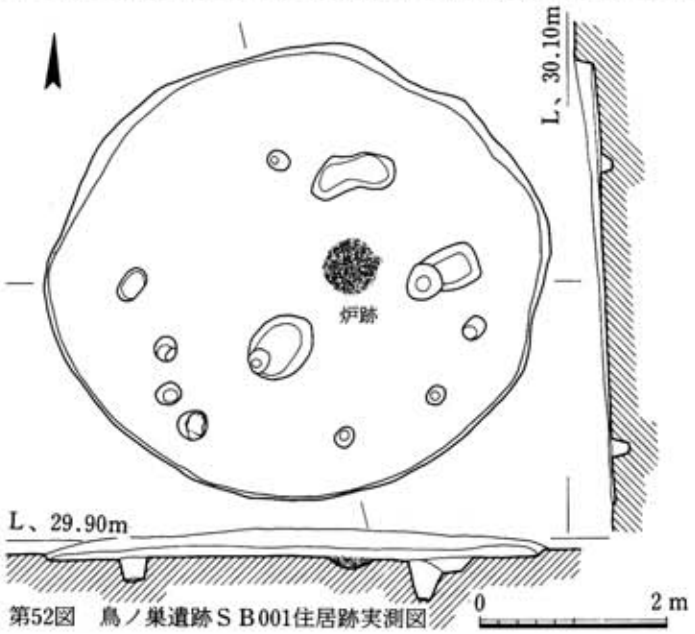


第51図　遺跡周辺地形図（S＝1/25,000）

波戸遺跡群は、東松浦半島の北西部鎮西町の北部に位置し、波戸岬を中心に広がっている。波戸遺跡群は3つの時代に大別することができる。1つは、ヨノド、井樋田、波戸大平、大平遺跡などの旧石器時代～縄文時代の遺跡、1つは大平古墳群などの古墳時代の遺跡。そしてもう1つは名護屋城跡を中心とする鳥津義弘、九鬼守隆、上杉景勝などの陣跡群である。その中にあって今回調査を行った永田A、C遺跡はこの地域の縄文～古墳時代を埋める重要な遺跡といえる。調査が狭い範囲であり検出した遺構は柱穴群と土壙である。遺物は縄文時代の石鏃、古墳時代土師器、須恵器などである。

鳥ノ巣遺跡は前年度の確認調査で甕棺墓1基を確認していた。今回の調査では甕棺墓に加えて竪穴住居跡1軒、土壙墓4基、石蓋土壙墓1基を検出した。住居跡は弥生中期のもので平面形は円形で、中央部に炉をもつ。柱穴は10ヵ所確認された。出土した遺物は縄文土器片、弥生土器片等があるが、小破片が多くしかも量は少ない。

本遺跡は遺構、遺物から弥生時代中期～後期を中心とする遺跡と考えられる。住居跡は調査区外にも存在する可能性が強く、甕棺墓についても遺跡の東側にある修理工場建築の際、甕棺墓の出土が確認されており、今回の調査は集落の一部と墓域の西端部を調査したものと考えられる。



第52図　鳥ノ巣遺跡SB001住居跡実測図

16. 日南田代遺跡群（山中遺跡ＨＹＮ 西七ツ江遺跡ＨＮＮ）

遺跡の所在地

東松浦郡肥前町大字納所

調査主体者

佐賀県教育委員会

調査期間

昭和56年８月～昭和56年９月

調査面積

1,700㎡

遺跡の概要

第53図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

山中遺跡は肥前町の西側、入野半島のほぼ中央部に位置する。緩斜面の丘陵上（標高116m）に遺跡は広がっている。周辺は旧石器から縄文時代の遺跡が濃密度で存在し、遺跡群を形成している。遺跡は約2,500㎡の広がりをもつものと推定されるが、その中の1,100㎡を今回調査した。第２層が旧石器時代の遺物包含層であるが、土層はほとんどの地区で薄く、良好な文化層を検出することはできなかった。遺跡の南側に石器製作場と推定されるブロックが１ヵ所確認された。出土遺物は約500点の石器で、ナイフ形石器、刃器、細石刃、剥片、石核等である。他に縄文時代の遺物として、石鏃、剥片、石核等が出土した。

西七ツ江遺跡は山中遺跡の東約500mに位置し、丘陵の東緩斜面に遺跡は広がる。遺跡の東には水田が開け、湧水点もある。遺跡は約1,000㎡の広がりをもつと推定されるが、今回はそのうち600㎡を調査した。検出した遺構はほとんどが不定形土壙、柱穴状のピットであり、その埋土からの出土遺物は縄文時代の石鏃、掻器、剥片等であり、土器片の出土はほとんどなく時期は明らかでない。

山中遺跡全景（南から）

17. 田尾遺跡（略号ＴＡＯ）

遺跡の所在地

東松浦郡肥前町大字入野

調査主体者

肥前町教育委員会

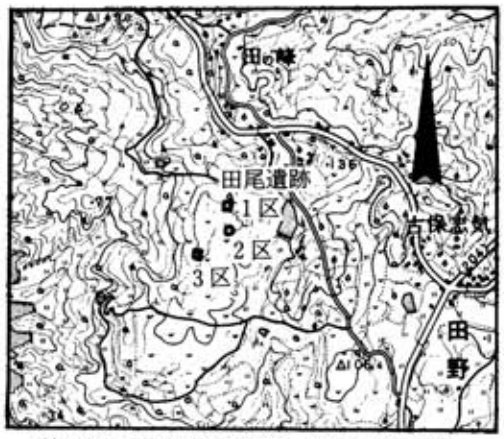
調査期間

昭和56年４月～昭和56年５月

調査面積

1,400㎡

遺跡の概要



第54図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

遺跡は、肥前町の西側、入野半島の根元部に位置する。標高120mの丘陵上に立地する広範囲な遺跡である。今回の調査では４ヵ所（Ａ～Ｄ区）を調査した。Ａ区からは、２枚の縄文時代早期の遺物包含層を確認した。Ｂ区からは溝跡、Ｃ区からは多数の柱穴群を検出した。

Ｄ区からは掘立柱建物跡、土壙を検出した。

Ａ～Ｄ区から出土した遺物は34,000点余りの土器片、石器類である。土器片には押型文土器があるが、大半は小破片であるため、詳細は不明である。石器は、石鏃が50%近くを占め、剝片鏃・鋸歯鏃・片脚鏃・半磨製鏃が含まれる。次いで掻器が多く、他に尖頭状石器、石錐、石斧、石ベラ、砥石等がみられる。

⑱　平野遺跡群（前田Ａ遺跡 MDA 前田Ｂ遺跡）

遺跡の所在地

東松浦郡北波多村大字下平野

調査主体者

北波多村教育委員会

調査期間

昭和56年５月～昭和56年６月

調査面積

1,500㎡

遺跡の概要

第55図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

平野遺跡群は、北波多村の西部に位置する。田中川西岸の河岸段丘上に立地している。前田Ａ遺跡からは遺構は検出されず、旧石器時代の細石核、縄文時代晩期中葉（黒川式）の浅鉢、石鏃・磨石が出土した。前田Ｂ遺跡からは、柱穴群と遺物包含層を検出し、縄文晩期の土器片、石鏃・石匙・掻器・磨石等が出土した。

19. 野田（のだ）遺跡（略号ＮＯＤ）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字竹

調査主体者

佐賀県教育委員会

調査期間

昭和57年１月～昭和57年３月

調査面積

1,200㎡

遺跡の概要

第56図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝1/25,000）

遺跡は、神埼町の北部に位置し、日の隈山の南方に展開する城原川水系が形成した扇状地上に立地している。遺跡付近の標高は８～９ｍである。今年度発掘調査を実施した北側を、昭和53年度県営圃場整備事業に伴い、県教委が発掘調査を行っており、その時点で遺跡の性格や範囲が確認されていた。

検出した主な遺構は、弥生時代中期の甕棺墓、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土壙、溝跡、柱穴群である。

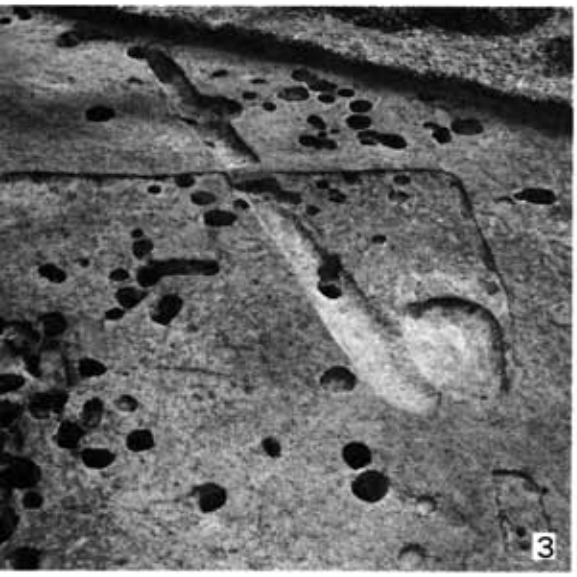
甕棺墓は６基で、弥生時代中期のものである。６基のうち、小児用が１基、成人用が１基、不明のもの１基である。ほとんどが棺上半部まで削平されており、中には完全に破壊されたものもある。竪穴住居跡は１軒で、上部が削平されて、わずかにその痕跡が認められた。掘立柱建物跡は17棟で、平安時代～室町時代のものである。調査区外に延びるものもあり、規模不明のものが多い。確実なもので１間×１間、２間×１間、２間×２間、３間×２間の規模のものが認められた。井戸跡は５基あり、みな鎌倉時代のものである。平面は円形で、単掘りのものと二段掘りのものがある。規模は上面径1.0～1.3m、深さ1.1～2.1mである。

土壙は12基あり、平面が円形、隋円形、隅丸長方形で、規模も大小様々である。溝跡は30条ある。大半は近世以降のもので、残存状態は悪い。７条が奈良時代～鎌倉時代のもので、掘り方もしっかりしており、東西および南北方向に規則性をもって延びている。

出土した遺物は、土師器、須恵器、瓦器が大半を占め、他に陶磁器、木製品、滑石製石鍋、土錘、石鏃、打製石斧などである。土師器は杯・小皿・甕・甑、須恵器は杯・壺・甕、瓦器は椀・皿の器種がみられる。奈良時代の須恵器の杯に「井」と墨書したものが１点ある。陶磁器は中国産で白磁と青磁の碗がある。木製品には、井戸跡から完形で出土した横槌１個や、大きな川状の溝跡から出土した用途不明なものが数点ある。

以上のように野田遺跡は、弥生時代中期の墓地群（甕棺墓）と古墳時代（６世紀半）から鎌倉時代（13世紀）にかけて営まれた集落跡である。

図版 21



1．野田遺跡調査区西側全景(東から)
2．野田遺跡調査区東側全景(東から)
3．ＳＢ001住居跡(西から)
4．ＳＢ038堀立柱建物跡(東から)
5．ＳＥ006井戸跡(南東から)
6．ＳＫ013土壙(北から)

V 総　　括

佐賀県における農業基盤整備事業は、平野部の圃場整備事業（県営・団体営）と佐賀上場地区の灌排・畑総事業（国営・県営）が施行されている。平野部は、佐賀東部地区、佐賀西部地区、佐賀南部地区、佐賀北部地区の4地区に分けている。佐賀東部地区は、鳥栖市・三養基郡・神埼郡、　佐賀西部地区は、佐賀市・多久市・佐賀郡・小城郡、　佐賀南部地区は、武雄市・鹿島市・杵島郡・藤津郡、　佐賀北部地区は、唐津市・伊万里市・西松浦郡・東松浦郡の一部である。佐賀上場地区は、東松浦半島の通称「上場台地」と呼ばれる地域で、東松浦郡および唐津市の一部である。以下、昭和56年度に行った文化財確認調査・発掘調査についてまとめてみる。

文化財確認調査

佐賀東部地区　鳥栖市田代地区、基山町金丸地区、三根町三根東地区・三根西地区、東脊振村大曲地区、神埼町的地区、諸富町徳富地区、千代田町詫田地区から遺跡が確認された。田代地区は、銅鐸鋳型や銅鉾鋳型の出土した安永田遺跡の南側にあたり、この安永田遺跡との関連が注目される。金丸地区は弥生時代の遺構を検出した。三根東地区および三根西地区は古墳時代から中世にかけての遺跡を確認した。大曲地区で確認した5ヵ所で20,000㎡の遺跡群は、弥生時代から中世にかけての集落跡と考えられる。周辺には、二塚山遺跡群、夕ヶ里遺跡、西石動遺跡があり、神埼町から、この大曲地区一帯は、弥生時代から中世にかけての大集落群を形成していたことになる。的地区は、城原川東岸の河岸段丘に10ヵ所、136,000㎡に弥生時代から古墳時代にかけての集落跡・墳墓群からなる遺跡が確認された。徳富地区は、筑後川の自然堤防上に営まれた弥生時代後期から鎌倉時代の遺跡を確認した。遺跡の解明とともに、佐賀平野の形成過程を考える上で新たなる資料の提供となる。詫田地区は、城原川、田手川が形成した自然堤防上に弥生時代貝塚を中心とする105,000㎡の遺跡が確認された。

佐賀西部地区　大和町久池井地区・川上南部第2地区、三日月町織島東分地区から遺跡が確認された。久池井地区は、近年の調査で明らかになりつつある肥前国府正庁跡の東方に位置し、国府関係の遺構の検出が注目される。川上南部第2地区は、嘉瀬川と山王川の形成した自然堤防上に、弥生時代の遺跡を確認した。この一帯は久留間遺跡群をはじめとする弥生時代の大遺跡群を形成しており、遺跡群の構成がどのように展開するか期待される。織島東分地区は、弥生時代から中世にかけての集落跡および方墳を1基確認した。また条里に関係すると思われる溝跡の検出は注目される。

佐賀南部地区　白石町馬洗地区、塩田町南志田地区・塩田地区（五町田）、武雄市武雄南部地区・武雄東部地区から遺跡が確認された。馬洗地区からは中世の遺構を検出しており、遺跡の性格は館跡と考えられる。白石平野に点在する中世武士団の館跡群の1つである。南志田地区

は、中世を中心とする集落跡、塩田地区は奈良時代集落跡と考えられる。武雄南部地区・武雄東部地区は弥生時代から古墳時代にかけての集落跡と考えられる。周辺には有鉤釧を出土した茂手遺跡やみやこ遺跡があり、これらの遺跡との関係が注目される。

佐賀北部地区　西有田町曲川地区・大山地区、唐津市久里・鏡地区から遺跡を確認した。曲川地区・大山地区の所在する国見岳南側山麓には、坂ノ下遺跡をはじめとする旧石器時代から縄文時代にかけての多くの遺跡が知られており、今回の調査においても縄文時代を中心とする遺構が確認された。久里・鏡地区は松浦川下流の自然堤防上から古墳時代の集落跡を確認した。

佐賀上場地区　唐津市後川内地区、肥前町切木地区・大野地区、上ヶ倉地区から遺跡が確認された。後川内地区は縄文時代の遺物包含層、中世から近世の集落跡、石塁を確認した。切木地区・大野地区・上ヶ倉地区からは旧石器時代の遺物包含層が確認された。肥前町内からは、磯道遺跡、生石遺跡など旧石器時代の良好な遺跡が調査されており、旧石器時代の研究上重要な地域と言える。

文化財発掘調査

旧石器時代の調査が昭和52年度の生石遺跡以来、本格化してきており、今年度も山中遺跡の調査などで、旧石器時代の実態が明らかにされつつある。

縄文時代の調査も、田尾遺跡・大橋遺跡など佐賀上地場区を中心に行われており、一方、平野部においても、夕ヶ里遺跡の住居跡や志波屋遺跡群の壺棺墓などが調査されたことは意義が大きい。

弥生時代では、詫田上地貝塚から多数の動物骨、魚骨が出土し、当時の食生活を解明する貴重な資料を提供してくれた。詫田遺跡群では初めての本格的な調査であり、今後の調査による遺跡群の解明が待たれる。鞍(鼓)遺跡の住居跡と墳墓群は上場地区の弥生文化を思考する上で重要である。夕ヶ里遺跡・尾崎土生遺跡・柴尾橋下流遺跡などの後期から終末期の集落跡は古墳時代前期の集落跡と関連して注目される。

古墳時代は、近年、集落跡の調査が増加してきており、今年度は夕ヶ里遺跡、尾崎土生遺跡、志波屋遺跡群から多数の住居跡と土器を検出した。昭和48年度の本川原遺跡の調査以来、いわゆる古式土師器の集積が行われており、古墳時代の成立を考える上で、意義あることである。

歴史時代では、資料的に不耗と言われる中世遺跡の調査が、昭和49年度の戌遺跡から始まり、今年度も板橋遺跡、北浦遺跡など集落跡、館跡の調査が行われ、中世史解明には吉報であろう。古代・中世の土師器編年、あるいは輸入陶磁器の問題など新たな問題提起がなされている。また、近年、農業基盤整備事業の進行とともに条里制の地形が失われつつある。幸い、三日月町においては、旧地割にそった区画が施行されているので旧地割の景観は、かろうじて残されている。しかし、旧地割をどのようにして保存していくか、神埼郡・杵島郡の条里とあわせて検討しなければならない時期に至っている。

佐賀県農業基盤整備事業
に係る文化財調査報告書1

昭和57年3月印刷
昭和57年3月発行

発行　佐賀県教育委員会
佐賀市城内1丁目

印刷　佐賀印刷社
佐賀市高木瀬町長瀬1136
大和工業団地☎31－6171